

令和5年度

地方独立行政法人福岡市立病院機構に
係る業務実績に関する評価結果報告

福 岡 市

報告第47号

地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る業務実績に関する評価結果報告

地方独立行政法人法第28条第5項の規定により、地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る令和5年度の業務の実績に関する評価結果について報告する。

令和6年9月4日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

目 次

は じ め に	1
第 1 項 全体評価	2
第 2 項 項目別評価	4
(1) 大項目評価	
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	4
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	8
(2) 小項目評価	
1 福岡市立病院機構の概要	13
2 全体的な状況	15
3 項目別の状況	22
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成す るためとるべき措置	
1 医療サービス	22
2 患者サービス	46
3 医療の質の向上	58
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	76
2 事務部門の機能強化	80
3 働きがいのある職場環境づくり	82
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	86
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 持続可能な経営基盤の確立	88
2 収支改善	94
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	110
2 福岡市民病院における経営改善の推進	114
第 5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	118
第 6 短期借入金の限度額	121
第 7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	121
第 8 剰余金の使途	121
第 9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運 営に関する事項	122
参 考 資 料	123

は じ め に

福岡市は、地方独立行政法人法第28条第1項の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の令和5年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会において、評価に関する意見を聴取し、平成30年6月22日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委 員 長	松 浦 弘	済生会福岡総合病院 院長
副委員長	福 田 治 久	九州大学大学院医学研究院 准教授
委 員	案 浦 美 雪	福岡市医師会 副会長
	大 和 日美子	福岡県看護協会 会長
	行 正 晴 實	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及び判断理由

〈評価結果〉

第4期中期目標期間の3年目である令和5年度の業務実績に関する各大項目の評価については、小項目評価の結果を踏まえ、第1の大項目については「評価 A」、第2から第4については「評価 B」となる。

この大項目評価の結果を踏まえ、また、両病院ともに、引き続き新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）に対応するとともに、病院機能の強化や経営の効率化等に取り組んだことを踏まえ、令和5年度の業務の実績は、「中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる。」と評価する。

〈判断理由〉

福岡市立病院機構は、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となり、経営管理の徹底を図っている。

福岡市立こども病院においては、コロナの5類移行後においても、「コロナ患者の入院受入れ実施医療機関」として、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供するとともに、引き続き、中核的な小児総合医療施設としてこれまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実に取り組んだ。

福岡市民病院においては、引き続き、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」としてコロナ専用病床を確保し、福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たすとともに、コロナ以外に対応においても、高度専門医療の積極的な推進を図った。

経営収支面では、福岡市民病院において、コロナ対応のための病床確保が求められる中、令和4年度診療報酬改定による施設基準の厳格化の影響等により当期純損失が発生したが、中央区唐人町の旧こども病院跡地の売却益等により、法人全体では当期純利益を確保した。

全体評価にあたって考慮した内容

〈特筆すべき取組〉

〈福岡市立こども病院〉

- ・ 救急搬送を中心に小児のコロナ患者を積極的に受け入れ、また、緊急母体搬送症例の積極的な受入れ、移行期患者や家族への支援、医療的ケア児のレスパイト入院受入れなど、公立病院としての役割を果たした。
- ・ 臨床研究や治験業務に積極的に取り組むなど、小児・周産期医療の発展に寄与する取組を行った。

〈福岡市民病院〉

- ・ コロナ対策においては、引き続き「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として専用病床を確保し、福岡市における中核的な役割を果たすとともに、コロナ以外においても、高度専門医療及び高度救急医療に取り組んだ。特に救急医療については、受入件数において過去最高の水準を達成するなど、積極的に取り組んだ。
- ・ 能登半島地震に際しては、職員を派遣し被災地支援を行った。

〈両病院〉

- ・ 地域の医療機関との連携強化に努めた。
- ・ 厳しい経営環境に柔軟に対応したが、両病院ともに収支は悪化している。

評価にあたっての意見、指摘等

- ・ コロナ対応のほか、広域で重症患者の受け入れ等を行っており、評価すべき取組である。
- ・ コロナの影響を受ける中で、病床利用率や入院患者数で目標を達成していることは評価できる。
- ・ 厳しい経営環境にあって経営収支は悪化傾向にあるが、病床利用率や手術件数など指標によっては高い水準にあり、改善検討の余地はあるように思われる。収支悪化の原因をしっかりと分析し、計画的に改善に取り組まれない。

第2項 項目別評価

(1) 大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 A (計画以上に進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善すべき事項がある (特に認める)
【 120 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
コロナ5類移行後も、両病院ともに引き続きコロナ対応が求められ、適切に対応した。また、コロナ以外の高度専門医療や高度救急医療等に積極的に取り組み、診療機能の強化・充実を図るとともに、患者サービスや医療の質の向上に取り組み、多数の項目で目標を上回る成果を上げるなど、計画以上に進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目			評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 医療サービス	(1)良質な医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(2)地域医療への貢献と医療連携 の推進	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(3)災害・感染症等への適切な 対応	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
2 患者サービス	(1)患者サービスの向上	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2)情報発信	こども病院	3	1	3
		市民病院	3	1	3
3 医療の質の 向上	(1)病院スタッフの計画的な確保と 教育・研修	こども病院	3	2	6
		市民病院	4	2	8
	(2)信頼される医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	3	2	6
合 計				26	a 94
標準点(※全ての小項目評価が3)				b 78	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1-(1) 良質な医療の実践 ア福岡市立こども病院」

○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、また、前年から引き続き小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療への対応に取り組み、入院・外来ともに多くの患者への医療提供に取り組んだことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(1) 良質な医療の実践 イ福岡市民病院」

○ コロナ等の影響を受けて、病床利用率や入院患者数は目標値を下回っているが、救急搬送件数について、組織全体の取り組みにより、過去最高の水準を達成するなど、目標値を大きく上回ったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア福岡市立こども病院」

○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、特に逆紹介率やオープンカンファレンスについては、目標を大きく上回って実施しており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ福岡市民病院」

○ 目標値は全ての項目で達成しており、特にオープンカンファレンスや紹介率については目標を大きく上回って実施するなど積極的に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 ア福岡市立こども病院」

○ 小児のコロナ感染患者への対応に加え、急増したコロナ以外の感染症による救急患者への対応に積極的に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 イ福岡市民病院」

○ 今後の新興感染症対策として感染管理認定看護師の育成・増員に計画的に取り組むとともに、令和6年1月の能登半島地震については、職員を派遣し被災地支援を行うなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 イ福岡市民病院」

○ 病院に求められる役割の達成に向け、認定看護師の資格取得支援のほか、特定行為研修等について計画的な取組を進めるなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 ア福岡市立こども病院」

○ 全ての指標で目標値を上回るとともに、感染防止対策や医療安全対策の強化に取り組むとともに、病院機能評価で明らかとなったチーム医療強化等の課題対応に取り組むなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ コロナ対応のほか、広域で重症患者の受け入れ等を行っており、評価すべき取組である。
- ・ コロナ禍の影響を受ける中で、病床利用率や入院患者数で目標を達成していることは評価できる。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき 進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んで いる(120%以上)	おおむね計画どお り進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善 すべき事項がある (特に認める)
【 100 %】(a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
地方独立行政法人の特長を生かした自律的・機動性の高い病院経営が行われている。働き がいのある職場環境づくりにも積極的に取り組むなど、おおむね計画どおり進んでいると評価で きる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目	評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	3	1	3
2 事務部門の機能強化	3	1	3
3 働きがいのある職場環境づくり	3	1	3
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	3	1	3
合計		4	a 12
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ ハラスメント防止の任意研修会の参加人数が職員の規模に対して少ない印象を受ける。研
修回数を増やすなど、対応を検討されたい。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善すべき事項がある (特に認める)
【 100 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
両病院とも増収対策や費用削減に取り組み、経常収支について両病院ともに目標を達成しており、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目			評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 持続可能な 経営基盤の 確立	(1)経営基盤の安定化と運営費 負担金の適正化	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2)投資財源の確保		3	1	3
2 収支改善	(1)収益確保	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2)費用削減	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
合計				13	a 39
標準点(※全ての小項目評価が3)				b 39	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ コロナの影響があるかと思うが、医業収支比率や人件費等の対医業収益比率など一般的に言えば改善の余地がある数値であると思われる。
- ・ 病床利用率、手術件数など高い水準にあるにも関わらず医業収支の改善が結びついていない点など原因分析をしっかりと行われる必要があるものと思われる。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき 進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んで いる(120%以上)	おおむね計画どお り進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善 すべき事項がある (特に認める)
【 117 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
福岡市立こども病院においては、医療機能の充実を図るとともに、臨床研究や治験業務などで順調な成果を挙げていること、また、福岡市民病院においては、地域連携や高度医療の推進、コロナ対策などにおいて、求められる役割を果たしていることから、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目	評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	4	2	8
2 福岡市民病院における経営改善の推進	3	2	6
合計		4	a 14
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1 福岡市立こども病院における医療機能の充実」

- 川崎病や先天性心疾患に係る手術症例を始めとする高度小児専門医療に加え、小児救急医療、周産期医療等に着実に取り組んでいる。いずれも小児総合医療施設としての医療機能の充実に資する取り組みであり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

特になし

(2) 小項目評価
別紙のとおり

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和5年度の業務実績に関する評価結果

小項目評価

1 福岡市立病院機構の概要

(1) 現況（令和5年4月1日現在）

① 法人名

地方独立行政法人福岡市立病院機構

② 本部の所在地

福岡市東区香椎照葉五丁目1番1号

③ 役員の状況

役員	氏名	備考
理事長	原 寿郎	前 福岡市立こども病院 院長
副理事長	堀内 孝彦	福岡市民病院 院長
理事	石橋 達朗	九州大学 総長
	瓜生 道明	九州電力株式会社 代表取締役会長
	神坂 登世子	国際医療福祉大学 九州地区生涯教育センター 副センター長
	楠原 浩一	福岡市立こども病院 院長
	平田 誠一	運営本部 運営本部長
監事	近藤 祥子	公認会計士
	柳澤 賢二	弁護士

④ 設置・運営する病院

病院名	所在地	病床数
福岡市立こども病院	福岡市東区香椎照葉五丁目1番1号	一般病床 239床
福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町13番1号	一般病床 200床 感染症病床 4床

⑤ 職員数

（令和5年5月1日現在）

区 分	職員数
合 計	1,001人
福岡市立こども病院	600人
福岡市民病院	388人
運営本部	13人

(2) 基本的な目標等

地方独立行政法人福岡市立病院機構は、地方独立行政法人制度の特長である自律性、自主性を最大限に発揮し、医療制度改革や診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ、効率的な病院経営を行いながら、地域の医療機関等との機能分担や連携の下、引き続き高度専門医療、救急医療等を提供し、地域における医療水準の向上、市民の健康の維持及び増進に寄与すべく、以下の基本理念及び基本方針の下、福岡市長から指示された中期目標を達成する。

〈基本理念〉

いのちを喜び、心でふれあい、すべての人を慈しむ病院を目指します。

〈基本方針〉

質の高い医療の提供

地域・社会に貢献する病院

健全な病院経営

(1) 取組の総括と課題

法人設立14年目となる令和5年度については、福岡市から示された第4期中期目標期間の3年目であったが、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」へ移行した後も感染動向を踏まえながら、市立病院としての役割を果たすため、引き続きコロナ対応に取り組むとともに、病院機能の強化や経営の効率化等に取り組んだ。

令和5年度の年度計画については、引き続き、福岡市立こども病院においては、中核的な小児総合医療施設としてこれまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実に取り組んだ。また、福岡市民病院においては、コロナ対策における福岡市の中核的な役割を果たすとともに、高度専門医療については安定的な提供に取り組み、救急医療については「断らない救急」の徹底に取り組んだ結果、救急搬送件数は前年度を大きく上回るなど、救急患者の受け入れ体制の強化に取り組んだ。

経営収支面では、収益確保として、適宜、病院幹部によるモニタリングや協議を行う等、効率的に病棟を運用しながら、施設基準管理ソフトを活用し、増収に繋がる施設基準の取得及び維持に努めるとともに、令和6年度の診療報酬改定に関する的確な情報収集を行い、レセプト請求の精度向上等に取り組んだ。また、費用削減として診療材料等の選定や価格交渉等に取り組んだほか、省エネルギー化を推進する委員会を設置し光熱水費の縮減に努めた。さらに、中央区唐人町の旧こども病院跡地の売却を行ったことから、福岡市立こども病院において当期純利益は80億2千万円余となったが、福岡市民病院においては、コロナ対応のための病床確保が求められる中、令和4年度診療報酬改定による入院に係る施設基準の厳格化の影響等により、3億5千万円余の当期純損失が発生した。

今後の課題として、経営環境については、両病院ともに、引き続き感染症への対応を適切に行うとともに、福岡市立こども病院においては、求められる高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療を提供する病院としての役割を果たしていくため、医療環境の変化を見据えながら、医療機能等について検討を進めていく必要がある。

また、福岡市民病院においては、地域医療構想及び医療計画にて地域で必要とされる高度専門医療及び救急医療体制を提供するために必要な取組を継続して行うとともに、災害時や感染症等発生時などの緊急時には、事業継続計画に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、市立病院として求められる役割を果たす必要がある。

さらに、現在、福岡市病院事業運営審議会では審議されている将来的な福岡市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、現在の医療資源を最大限有効活用して経営の効率化に積極的に取り組む必要がある。

(2) 大項目ごとの取組状況及び特記事項

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 医療サービス

福岡市の医療施策として求められる高度専門医療、高度救急医療等を引き続き提供するために、診療機能の更なる充実を図った。

福岡市立こども病院においては、コロナの5類移行後も、「コロナ患者の入院受入れ実施医療機関」として、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供した。また、コロナ対応以外では、緊急母体搬送症例の積極的な受入れ、移行期患者や家族への支援、医療的ケア児のレスパイト入院受入れ、看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）等の多職種協働による患者情報の聴取や入院支援など診療機能の強化・充実に取り組んだ。

福岡市民病院においては、引き続き「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」としてコロナ専用病床を確保し、福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たすとともに、コロナ以外の対応においても、循環器内科において、九州大学病院の心臓血管外科と連携体制を構築するなど、高度専門医療の積極的な推進を図った。

また、日本脳卒中学会によるPSC（一次脳卒中センター）コア施設として救急搬送による脳卒中センターの受入件数が大幅に増加するとともに、「断らない救急」の徹底に取り組んだ結果、救急搬送件数は前年度、目標値ともに大きく上回った。

さらに、1月に発生した能登半島地震に際しては、日本医師会が組織するJMAT（日本医師会災害医療チーム）派遣に協力し、災害医療チームを派遣した。

加えて、両病院ともに令和4年度に引き続き、Webを活用したオープンカンファレンスを実施するなど、地域の医療機関を中心に積極的な病病・病診連携を推進するとともに、今後の新興感染症発生時における人員体制等について検討を行った。

2 患者サービス

患者及び施設利用者のサービス向上に取り組むとともに、病院の機能や役割を広く情報発信し、市民に開かれた病院づくりに努めた。

福岡市立こども病院においては、地元プロスポーツ球団等の病棟慰問等のイベントについて、コロナ以前と同様の形で再開するとともに、いのちのたび博物館との協働による「オンライン博物館」の開催、病室の付添者用ソファベッドの更新や病棟の自動販売機の増設、院内無料Wi-Fiの増設など、患者サービスの向上を図った。

福岡市民病院においては、駐車場に案内看板の新規設置、入院時のオリエンテーション動画の作成、デイルームのテレビや椅子の更新など、患者サービスの向上及び職員の負担軽減を図った。

さらに、両病院ともに、ホームページやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用した患者や医療関係者等への情報発信を行うとともに、出前講座や生涯学習講座を行うなど、医療機関、市民・患者に開かれた病院づくりに努めた。

3 医療の質の向上

実習生の受入れやWebを活用した説明会等を実施して、意欲ある人材の確保に努めるとともに、専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促進した。

福岡市立こども病院においては、院内のケアプロセス形式監査を実施するなど、病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組んだ。

また、薬剤師の集中治療系病棟以外の病棟への配置を段階的に開始し、薬物療法への関与による医療安全の確保や医師及び看護師の負担軽減を図った。

福岡市民病院においては、派遣会社を活用して看護師を確保するなど、看護職員の負担軽減を図るとともに、職員の欠員に対して、代替職員を適宜配置するなど職種ごとの定数管理を確実にを行うとともに、適正な労働時間の管理や、年次有給休暇の取得率向上に向けた取組、感染対策の強化に伴う職員の休憩スペースの確保など、職員が長く働き続けられる職場環境づくりを推進した。

両病院ともに、市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、感染症専門医や感染管理認定看護師等を中心に院内の感染防止対策の徹底を図るとともに、Web等を活用した他病院との情報交換や相互評価等により地域における医療安全対策の質の向上に取り組むなど、医療安全対策の強化を図った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実

法人運営を的確に行うため、令和5年度は計10回の理事会を開催し、理事会の方針決定に沿って自律的な運営を行った。

また、病院長のリーダーシップの下、執行部会議や経営五役会議等を開催し、医療情勢の変化や患者のニーズに対応できるよう迅速な意思決定、情報共有を図りながら、各病院の実態に即した機動性の高い病院経営に取り組むとともに、運営本部と両病院合同による経営会議及び運営調整会議を毎月開催し、法人全体的な視点から、市立病院として適切な法人運営に取り組んだ。

また、理事長直下の組織「企画情報推進室」において、情報システムの管理やセキュリティの強化、DX（Digital Transformation）の推進等について、機構全体で一体的にマネジメントするとともに、福岡市立こども病院においては、ペーパーレス会議システムや調剤ロボット（全自動秤量散薬分包機）の導入など、福岡市民病院においては、RPA（Robotic Process Automation）を活用し、感染管理のための情報収集や各種統計作業の自動化など、ICT（情報通信技術）の活用による業務の効率化を推進した。

2 事務部門の機能強化

資質向上を目的とした研修を実施するとともに、中堅の事務職員を外部主催の病院中堅職員育成研修に参加させるなど、事務職員の能力向上に努めた。

3 働きがいのある職場環境づくり

勤務を要しない日の振替制度の見直し及び育児を行う職員の深夜勤務や時間外勤務の制限における対象となる子の範囲の拡大について、令和6年4月施行に向け検討を行うなど制度の充実に取り組むとともに、全職員を対象にメンタルヘルス研修及びハラスメント研修を実施した。

両病院において、医師や看護師のタスクシフトに積極的に取り組み、労働時間の適正化に努めた。

また、国の補助金の趣旨に則った一時金の支給を行った。

4 法令遵守と公平性・透明性の確保

管理監督者に対する外部講師によるコンプライアンス研修を実施し、また、全職員への情報セキュリティ研修などによる個人情報保護等の職員の教育を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めるとともに、個人情報保護法に関する研修及び監査を実施した。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 持続可能な経営基盤の確立

執行部会議等を定期的開催し、月次決算による経営状況を迅速に把握し、経営分析等を通じて、取り組むべき課題を明確にしたうえで、収益確保及び費用削減に取り組むとともに、効率的な病院経営に取り組んだ。

また、収支改善により生じた利益を積み立て、今後の投資計画を踏まえた投資財源の確保を図り、計画的な施設整備、高額医療機器の更新や必要な医療機器の購入等、効果的な投資を行った。

2 収支改善

両病院ともに、施設基準管理ソフトを活用し、適切な施設基準の取得及び維持に努めるとともに、業務効率化や、価格交渉等による診療材料費の更なる縮減、省エネルギー化の推進などを行った。

福岡市立こども病院においては、病院幹部による患者数・手術件数等のモニタリング及び協議を行い、効率的な病棟運用の実施や国や県のコロナ関連補助金を含む各種補助金の申請を適切に行うとともに、院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に査定傾向の分析に基づいた診療報酬請求プロセスの改善活動を病院全体で実施したが、入院患者数及び入院単価の減により医業収益は93億7,900万円余で、前年度より3,700万円余の減となった。福岡市民病院においては、新規入院患者の確保と救急搬送件数の増加を目的とした「連携推進ワーキンググループ」を各診療科で開催し、紹介患者数、救急搬送件数ともに増加したほか、主要診療科のカンファレンスに医事課並びに医療事務委託会社の職員が参加し、改善に関する情報提供・情報共有に努めるなどレセプト請求の精度向上に取り組み、医業収益は59億700万円余で、前年度より3億6,500万円余の増となった。

これらの結果、福岡市立こども病院においては、経常収支比率及び医業収支比率が目標を上回り、福岡市民病院においては、医業収支比率は目標を下回ったが、経常収支比率は目標を上回り、法人全体での当期純利益は76億7,800万円余となった。

【医業収益】

(単位：千円)

区 分	令和4年度 実績値(①)	令和5年度 目標値(②)	令和5年度 実績値(③)	対前年実績値 (③－①)	対目標値 (③－②)
福岡市立こども病院	9,416,163	9,409,756	9,379,003	▲37,160	▲30,753
福岡市民病院	5,542,365	5,957,909	5,907,481	365,116	▲50,428
法人全体	14,958,528	15,367,665	15,286,484	327,956	▲81,181

【営業費用】

(単位：千円)

区 分	令和4年度 実績値(①)	令和5年度 目標値(②)	令和5年度 実績値(③)	対前年実績値 (③－①)	対目標値 (③－②)
福岡市立こども病院	10,632,949	11,065,226	10,888,417	255,468	▲176,809
福岡市民病院	7,138,187	7,127,912	7,462,714	324,527	334,802
法人全体	17,771,136	18,193,138	18,351,131	579,995	157,993

【医業収支比率（医業収益/営業費用）】

区 分	令和4年度 実績値(①)	令和5年度 目標値(②)	令和5年度 実績値(③)	対前年実績値 (③－①)	対目標値 (③－②)
福岡市立こども病院	88.6%	84.9%	86.1%	▲2.5ポイント	1.2ポイント
福岡市民病院	77.6%	83.5%	79.2%	1.6ポイント	▲4.3ポイント
法人全体	84.2%	84.5%	83.3%	▲0.9ポイント	▲1.2ポイント

【経常収支比率】

区 分	令和4年度 実績値(①)	令和5年度 目標値(②)	令和5年度 実績値(③)	対前年実績値 (③－①)	対目標達 (③－②)
福岡市立こども病院	106.8%	98.8%	100.3%	▲6.5ポイント	1.5ポイント
福岡市民病院	114.7%	93.3%	95.7%	▲19.0ポイント	2.4ポイント
法人全体	110.0%	94.5%	98.5%	▲11.5ポイント	4.0ポイント

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

1 福岡市立こども病院における医療機能の充実

厚生労働省DPC（診断群分類）公開データにおいて、川崎病（175例）及び先天性心疾患に係る手術症例（77例）について、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が8年連続で全国1位となった。

また、科学研究費助成事業（文部科学省）で研究代表として採択された課題等に積極的に取り組み、15件（うち研究代表2件）の研究に参加した。

さらに、国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、医療英語・中国語・フランス語研修を開催したほか、臓器提供の申出に円滑に対応できるよう、外部講師の講演会を開催するとともに、脳死判定及び臓器提供のシミュレーションを実施した。

2 福岡市民病院における経営改善の推進

令和4年度に設置したICIC（感染対策情報発信センター）において、地域の医療従事者向けに情報発信を継続して行うとともに、地域における感染症対策の質の向上や今後の新興感染症への備えの強化に取り組んだ。

コロナ対応については、5類移行後も感染動向に合わせて病床確保を継続し、10月からの確保病床制度の解除後も、重症化リスクの高い患者受入に継続して取り組んだ。

上半期はコロナ対応のための病床確保を継続した影響と、令和4年度診療報酬改定により変更となった入院料に係る施設基準への対応のため、病床利用率が低下した。病床利用率改善のため、毎朝の「病床管理会議」等を実施し、経営改善に向けて病院を挙げて取り組むことを周知徹底したことにより、下半期には徐々に病床利用率が向上したほか、紹介患者数、救急搬送件数についても増加した。

一方で、高額な薬品等の使用増や、手当の増による給与費の増等により、医業収支比率は目標を下回ったものの、国や県のコロナ関連補助金により、病床確保の継続で減収となる医業収益の補填に活用し、経常収支比率は目標を達成した。

【主な目標値の達成状況】

区 分		福岡市立こども病院			福岡市民病院		
		5年度 目標値	5年度 実績値	達成率	5年度 目標値	5年度 実績値	達成率
患者 動向	1人1日当たり入院単価（円）	111,900	111,393	99.5	73,000	78,480	107.5
	1人1日当たり外来単価（円）	12,200	11,279	92.5	24,000	26,756	111.5
	1日当たり入院患者数（人） （病床利用率（％））	198.6 (83.1)	199.9 (83.7)	100.7 (100.7)	173.0 (85.0)	155.6 (76.3)	89.9 (89.8)
	新規入院患者数（人）	7,200	7,760	107.8	4,750	4,533	95.4
	平均在院日数（日）※1	9.9	8.4	117.9	11.5	11.6	99.1
	1日当たり外来患者数（人）	383.0	406.2	106.1	214.0	211.5	98.8
医業 活動	手術件数（件）	2,600	2,732	105.1	3,800	3,873	101.9
	救急搬送件数（件）	1,200	1,723	143.6	2,850	3,774	132.4
	紹介率（％）	90.0	97.2	108.0	92.9	114.4	123.1
	逆紹介率（％）	66.7	80.7	121.0	166.4	191.2	114.9
	薬剤管理指導件数（件）	5,000	6,121	122.4	7,220	7,207	99.8
	栄養食事指導・相談件数（件）	1,400	1,736	124.0	1,110	845	76.1
患者 満足	退院時アンケートの平均評価点数 （こども病院）（100点満点）	89.0	90.2	101.3	—	—	—
	患者満足度調査における平均評価 点数（福岡市民病院）（100点満点）	—	—	—	90.0	91.4	101.6
経営 収支	給与費対医業収益比率（％）※1	61.5	62.1	99.0	60.3	63.8	94.5
	材料費対医業収益比率（％）※1	19.9	20.5	97.1	29.4	33.0	89.1
	薬品費対医業収益比率（％）※1	6.6	8.0	82.5	8.4	11.9	70.6
	診療材料費対医業収益比率（％）※1	13.0	12.3	105.7	20.7	21.0	98.6
	委託費対医業収益比率（％）※1	11.4	10.7	106.5	8.2	8.6	95.3
	ジェネリック医薬品導入率（％）※2	85.0	85.1	100.1	87.9	89.1	101.4
	経常収支比率（％）	98.8	100.3	101.5	93.3	95.7	102.6
	医業収支比率（％）	84.9	86.1	101.4	83.5	79.2	94.9

※1 実績値が低い方が目標を達成している項目（達成率は目標値/実績値で算出）

※2 ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。

3 項目別の状況

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア 福岡市立こども病院 高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実に取り組むとともに、移行期医療や医療的ケア児への対応等、福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう、診療機能の充実や見直しを図る。	(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア 福岡市立こども病院 ○ 「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、引き続き、福岡県における新型コロナウイルス感染症に係る小児救急医療の提供を行う。 ○ 福岡県の地域周産期母子医療センターとして、地域の分娩施設等からの母体搬送・新生児搬送を受け入れ、高度な周産期医療を提供するとともに、「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、地域における周産期救急搬送体制の一翼を継続的に担う。 ○ たけのこ外来(循環器科)及びアレルギー看護外来(こどもアレルギーセンター)において、患者の成長に合わせた移行期医療を適切に提供する。 ○ 福岡県等が実施する「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に引き続き参加し、地域の小児在宅医療の推進に努める。 ○ 患者及び家族が安心して入院生活を送れるよう、多職種協働による入退院支援部門の更なる拡充を図る。 ○ フォーミュラリー*の運用を実施し、エビデンスと経済性等に基づく小児薬物治療を推進するとともに、その過程で得られたエビデンスを基に、定期的な更新を行う。 *各々の医療機関等において、医学・薬学的妥当性や経済性等を踏まえて作成された医薬品の使用方針。

中期目標(内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的かつ継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 ア 福岡市立こども病院 これまで培ってきた高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、中核的な小児総合医療施設として求められる役割を果たすこと。
-----------------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ コロナの5類移行後においても、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」(令和5年9月末まで)及び「コロナ患者の入院受入れ実施医療機関」(令和5年10月以降)として、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供した。 ○ 「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、切迫早産等新生児病床を必要とする緊急母体搬送症例を積極的に受け入れる(5年度101件、4年度91件)とともに、ドクターカーによる新生児の迎え搬送を積極的に行う(5年度96件、4年度91件)など、地域における周産期救急搬送体制の一翼を担った。 ○ 移行期支援外来(たけのこ外来)において、移行期患者教育プログラムを着実に実施(5年度48人、4年度64人)するとともに、移行期支援のプレ期となる10歳以上の患者及び患者家族に対して、移行期支援外来の目的やセルフケアの確立に向けての教育を行った。(5年度6人、4年度24人)。 また、令和4年度に新設したこどもアレルギーセンターにおいて、移行期支援プログラム策定に係る検討を開始した。 ○ 福岡県等が実施する「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に引き続き参加し、医療的ケア児のレスパイト入院を受け入れた(5年度9人、延べ38日、4年度12人、延べ59日)。 ○ 引き続き、看護師、MSW(医療ソーシャルワーカー)等の多職種協働による「入退院支援推進チーム」により、8診療科(眼科・耳鼻いんこう科・小児外科・泌尿器科・循環器科・皮膚科・脳神経外科、形成外科)の入院予定患者(5年度延べ2,582人、4年度延べ2,891人)に対して、患者情報の聴取や入院に関する情報提供等の入院支援を実施した。 ○ フォーミュラリーについては、採用している医薬品の供給不足のため活発な運用ができず、更新に至らなかった。	2	3	4	○ 小児のコロナ患者に対する医療をはじめ、小児救急医療、周産期医療、移行期医療及び医療的ケア児への対応に着実に取り組んでいる。 ○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、また、前年から引き続き小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療への対応に取り組み、入院・外来ともに多くの患者への医療提供に取り組んだことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指 標	福岡市立こども病院			指 標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	108,393	112,546	110,000	1人1日当たり 入院単価（円）	109,403	111,900
1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率 （％））※	215.5 (90.2)	190.0 (79.5)	205.5 (86.0)	1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率 （％））※	198.9 (83.2)	198.6 (83.1)
新規入院患者数 （人）	7,428	6,180	6,883	新規入院患者数 （人）	7,104	7,200
手術件数（件）	2,929	2,730	2,800	手術件数（件）	2,705	2,600
救急搬送件数 （件）	1,380	963	1,060	救急搬送件数 （件）	1,269	1,200
PICU(小児集 中治療室)利用率 （％）	98.1	98.1	98.1	PICU（小児集 中治療室）利用率 （％）	98.1	97.0
NICU(新生児 集中治療室)利用 率（％）	95.7	94.3	95.5	NICU（新生児 集中治療室）利用 率（％）	97.9	97.0
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出				※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指 標	福岡市立こども病院					
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値				
1人1日当たり 入院単価（円）	111,703	111,393				
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率 （％））※	200.7 (84.0)	199.9 (83.7)				
新規入院患者数 （人）	7,486	7,760				
手術件数（件）	2,599	2,732				
救急搬送件数（件）	1,923	1,723				
P I C U（小児集 中治療室）利用率 （％）	97.1	91.5				
N I C U（新生児 集中治療室）利用 率（％）	97.2	97.7				
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出						
【自己評価の判断理由】						
○ 目標値については、1人1日当たり入院単価及びP I C U利用率は目標値を下回ったが、それ以外の指標で目標値を上回るとともに、コロナの5類移行後においても、引き続き小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 イ 福岡市民病院 ① 福岡県保健医療計画及び地域医療構想に基づき、公立病院に求められる高度専門医療の更なる充実を図る。 ② 入院を必要とする重症度の高い救急患者の受入れを円滑に行うため、救急医療の更なる充実を図る。	(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 イ 福岡市民病院 新型コロナウイルス感染症対応については、国や県及び福岡市における施策の動向や感染状況を踏まえながら、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として引き続き福岡市における中核的役割を担うとともに、公立病院に求められる高度専門医療・救急医療の安定的な提供に取り組む。 ① 福岡県保健医療計画及び地域医療構想に基づき、がん、心疾患、脳卒中に係る難易度の高い鏡視下手術やカテーテル治療等、高度専門医療の更なる充実を図る。 脳卒中については、令和4年度に認定を受けた「PSC（一次脳卒中センター）コア施設」としての取組を継続し、地域の総合的な脳卒中センターとしての役割を果たす。 ② 入院を必要とする重症度の高い救急患者の受入れを円滑に行うため、救急受入れに係る体制や受入病床の運用を見直すなど、救急医療の更なる充実を図る。

中期目標 (内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的かつ継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 イ 福岡市民病院 高度専門医療を担う地域の中核病院としての機能を維持するとともに、高度救急医療の更なる充実を図ること。
--------------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ コロナ対応については、5類移行後も病床確保を継続しながら、他の医療機関で受入困難な症例や中等症以上の患者の受け入れを継続して行い、公立病院として、また福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、引き続き福岡市における中核的な役割を果たした。 併せて、コロナ以外の高度専門医療・救急医療の安定的な提供に取り組み、全ての指標で前年度を上回るとともに、コロナ対応の影響が残る病床利用率と新規入院患者数を除いて目標値を上回った。 ① 消化管外科、肝臓外科の医師の退職に伴うマンパワーの減等があったものの、腹腔鏡下手術等の高度な手術に取り組み、手術件数は目標を上回った(腹腔鏡下手術: 5年度286件、4年度292件)。 また、循環器内科においては、九州大学病院の心臓血管外科と連携体制を構築したうえで、高度石灰化冠動脈病変に対し、衝撃波により石灰化を破砕するC2コロナリーI V Lカテーテルや、小さなカプセル型のペースメーカーを直接心臓内に留置するリードレスペースメーカーといった新規技術を導入し、安全性を担保しつつ安定的な治療や、合併症のリスク軽減、患者のQOL (Quality of life) 向上に取り組むなど、高度専門医療の積極的な推進を図った。 脳卒中については、令和4年度に認定を受けたPSCコア施設としての取組を継続して行い、脳卒中相談窓口での相談件数は109件(前年度179件)で、脳血管内治療件数は38件(前年度55件)であった。 また、救急搬送による脳卒中センターの受入件数が451件(前年度326件)と大幅に増加した。	2	3	4	○ コロナへの対応については、引き続き本市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たすとともに、高度専門医療等について着実に取り組んでいる。 ○ コロナ等の影響を受けて、病床利用率や入院患者数は目標値を下回っているが、救急搬送件数について、組織全体の取組みにより、過去最高の水準を達成するなど、目標値を大きく上回ったことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指 標	福岡市民病院			指 標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	64,081	69,327	66,300	1人1日当たり 入院単価（円）	78,153	73,000
1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率 （%））※	183.9 (90.2)	167.5 (82.1)	190.0 (93.1)	1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率 （%））※	154.0 (75.5)	173.0 (85.0)
新規入院患者数 （人）	4,525	4,053	4,769	新規入院患者数 （人）	4,048	4,750
手術件数（件）	3,719	3,437	3,815	手術件数（件）	3,877	3,800
救急搬送件数 （件）	2,820	2,404	3,023	救急搬送件数 （件）	2,565	2,850
救急搬送患者の 入院率（%）	44.0	43.6	43.6	救急搬送患者の 入院率（%）	50.1	43.6
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出				※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																								
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																							
② 救急患者の受入体制について、副院長をリーダーとする「地域連携推進ワーキンググループ」を設置し、紹介患者に加えて救急患者についても、効率的な受入体制や、医師、看護師の負担軽減等を行い、「断らない救急」の徹底に取り組んだ結果、救急搬送件数は前年度、目標値ともに大きく上回った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>79,493</td><td>78,480</td></tr><tr><td>1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率 （％））※</td><td>144.8 (71.0)</td><td>155.6 (76.3)</td></tr><tr><td>新規入院患者数 （人）</td><td>4,044</td><td>4,533</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>3,580</td><td>3,873</td></tr><tr><td>救急搬送件数 （件）</td><td>3,037</td><td>3,774</td></tr><tr><td>救急搬送患者の 入院率（％）</td><td>43.6</td><td>44.1</td></tr></table> ※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出 【自己評価の判断理由】 ○ コロナ5類移行後も、病床確保を継続し重症化リスクのある患者受入れを積極的に行い、福岡市のコロナ対応における中核的な役割を果たした。目標値については、1日当たり入院患者数と新規入院患者数は目標を下回ったが、救急搬送件数は目標値と前年度実績を大きく上回った、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。	指 標	福岡市民病院		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	79,493	78,480	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率 （％））※	144.8 (71.0)	155.6 (76.3)	新規入院患者数 （人）	4,044	4,533	手術件数（件）	3,580	3,873	救急搬送件数 （件）	3,037	3,774	救急搬送患者の 入院率（％）	43.6	44.1				
指 標		福岡市民病院																									
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値																									
1人1日当たり 入院単価（円）	79,493	78,480																									
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率 （％））※	144.8 (71.0)	155.6 (76.3)																									
新規入院患者数 （人）	4,044	4,533																									
手術件数（件）	3,580	3,873																									
救急搬送件数 （件）	3,037	3,774																									
救急搬送患者の 入院率（％）	43.6	44.1																									

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
中期計画	年度計画
(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 また、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組む。 ② 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、引き続き地域における小児等医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。 ③ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおける中心的な役割を求められていることを踏まえ、回復期・慢性期病院や地域の在宅医療・介護を担う医療機関等との積極的な連携・支援に取り組むとともに、緊急時の円滑な入院受入れを行う。	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア 福岡市立こども病院 ① 地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を推進するとともに、「こども病院カンファレンス」等のオープンカンファレンスを開催するなど、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組む。 ② 福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、地域におけるネットワーク構築や院内における退院支援、多職種を対象とした研修会等を行い、地域の小児在宅医療の推進に努める。 地域医療連携室ニュースレターを年4回発行し、病院の診療体制・診療内容の紹介、地域医療連携に関する情報、カンファレンス・研修会の案内等、登録医療機関への情報発信を継続的に行っていく。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進するとともに、地域包括ケアシステムの推進に取り組む上で求められる役割を果たすよう病院運営に取り組むこと。			
業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 病病・病診連携や在宅医療・小児慢性特定疾患における多職種連携を推進するとともに、「こども病院カンファレンス」や「こどもアレルギーセンター講演会」等のオープンカンファレンスを開催するなど、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組んだ。 ② 訪問看護ステーションのスタッフを対象とした研修会（テーマ：「在宅人工呼吸療法～緊急時・災害時の対応を中心に～」）及び医療型・福祉型の短期入所施設や特別支援学校の職員を対象とした研修会（テーマ：「言語聴覚士によるリハビリについて」）を各1回開催するとともに、在宅移行支援の一環として、退院前訪問3回（うちオンライン訪問2回）及び退院後訪問を1回実施し、患者宅の環境調整及び療養上必要な指導を行うなど、「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院としての役割遂行に努めた。 前方連携の強化を目的として、登録医宛にニュースレターを送付（4回）し、こどもアレルギーセンターに関する情報提供や当院の取組、研修会等の案内を行った。	2	3	4	○ 病病・病診連携や在宅医療・小児慢性特定疾患における多職種連携の推進など、地域医療への貢献に著実に取り組んでいる。 ○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、特に逆紹介率やオープンカンファレンスについては、目標を大きく上回って実施しており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画					年度計画				
【目標値】					【目標値】				
指 標		福岡市立こども病院			指 標		福岡市立こども病院		
		令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値			令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	
新規紹介患者数 (人)		8,605	6,350	7,570	新規紹介患者数(人)		8,397	7,500	
紹介率(%)		94.8	89.1	90.0	紹介率(%)		92.6	90.0	
逆紹介率(%)		68.7	61.3	66.7	逆紹介率(%)		66.6	66.7	
オープン カンファレ ンス	回 数 (回)	31	18	24	オープン カンファレ ンス	回 数 (回)	33	30	
	参加者数 ※1(人)	805	600	800		参加者数 ※1(人)	1,298	800	
登録医療機関数 (施設)		284	287	285	登録医療機関数(施設)		290	290	
退院支援計画件数 ※2(件)		187	187	210	退院支援計画件数 ※2(件)		190	200	
※1 院外参加者数のみ ※2 退院支援計画書作成件数					※1 院外参加者数のみ ※2 退院支援計画書作成件数				

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指 標		福岡市立こども病院				
		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値			
新規紹介患者数 (人)		8,156	8,645			
紹介率 (%)		93.4	97.2			
逆紹介率 (%)		81.7	80.7			
オープン カンファレ ンス	回 数 (回)	38	40			
	参加者数 ※1 (人)	1,484	1,075			
登録医療機関数(施設)		289	289			
退院支援計画件数 ※2 (件)		212	217			
※1 院外参加者数のみ						
※2 退院支援計画書作成件数						
【自己評価の判断理由】						
○ 登録医療機関数以外のすべての指標で目標 値を上回るとともに、オープンカンファレン ス等を通じた地域の医療従事者等への教育研 修を実施するなど、年度計画を順調に実施し ていると判断し、自己評価は「3」とする。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
中期計画	年度計画
(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 また、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組む。 ② 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、引き続き地域における小児等医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。 ③ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおける中心的な役割を求められていることを踏まえ、回復期・慢性期病院や地域の在宅医療・介護を担う医療機関等との積極的な連携・支援に取り組むとともに、緊急時の円滑な入院受入れを行う。	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ 福岡市民病院 ① 地域医療支援病院として、地域の医療機関からの紹介患者及び救急患者の円滑な受入れ、I C T（情報通信技術）を活用した積極的な情報発信や、新規開業を含めたクリニック等への定期的な訪問活動等、病病・病診連携を積極的に推進する。 また、地域の医療従事者への教育研修等を積極的に行い、地域医療への貢献に取り組む。 ③ 地域包括ケアシステムにおいて中心的な役割を果たすため、回復期・慢性期病院や地域の在宅医療・介護を担う医療機関・施設等との積極的な連携・支援に取り組むとともに、緊急時の円滑な入院受入れを行う。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進するとともに、地域包括ケアシステムの推進に取り組む上で求められる役割を果たすよう病院運営に取り組むこと。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 3年ぶりに対面で令和5年6月開催した東部オープンカンファレンスでは、外部機関から67人(内部は64人)の参加があった。また、Webを活用したカンファレンス等の開催に加え、開放型登録医や後方連携施設等への当院の紹介や交流、意見交換等を目的とした「福岡市民病院 連携の会」を開催し、「顔の見える連携」の実現に取り組んだ。 また、福岡県看護協会主催の看護職員復帰研修事業や看護系大学における講演会に講師を派遣したほか、地域の訪問看護ステーションと相互に見学を受け入れ、当院から紹介した症例に関する報告会の実施、訪問看護ステーションの看護師の院内スキルアップ研修への参加など、情報発信や地域の医療従事者への教育研修に積極的に取り組んだ。 4期目となる看護師の特定行為研修は、外部からの受講生として地域の医療機関から看護師を1人受け入れ、院内の受講生と合わせ4人で開講し、全員が無事に修了した。 ③ 地域包括ケアシステムにおいては、入院前からの外来・病棟・退院支援部門との多職種連携を図り、早期介入による在宅療養支援の充実に取り組むとともに、在宅医療・介護スタッフとの情報共有や在宅スタッフとの退院前カンファレンスを積極的に行うことで、在宅療養支援における質の向上を図った(退院前カンファレンス件数:5年度67件、4年度57件)。	2	3	4	○ 病病・病診連携の充実や地域包括ケアシステムに係る取組に、着実に対応している。 ○ 目標値は全ての項目で達成しており、特にオープンカンファレンスや紹介率については目標を大きく上回って実施するなど積極的に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画					年度計画				
【目標値】					【目標値】				
指 標		福岡市民病院			指 標		福岡市民病院		
		令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値			令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	
新規紹介患者数 (人)		5,147	4,373	5,035	新規紹介患者数 (人)		4,370	4,390	
紹介率 (%)		88.7	88.0	88.0	紹介率 (%)		95.9	92.9	
逆紹介率 (%)		152.3	152.2	152.2	逆紹介率 (%)		185.2	166.4	
オープン カンファレ ンス	回 数 (回)	108	40	100	オープン カンファレ ンス	回 数 (回)	41	38	
	参加者数 ※1 (人)	880	100	1,000		参加者数 ※1 (人)	431	300	
登録医療機関数 (施設)		273	273	275	登録医療機関数 (施設)		289	312	
退院調整件数 ※ 2 (件)		1,109	1,046	1,181	退院調整件数 ※ 2 (件)		1,063	1,145	
※1 院外参加者数のみ					※1 院外参加者数のみ				
※2 入退院支援加算1・介護支援連携指導料の合計 件数					※2 入退院支援加算1・介護支援連携指導料の 合計件数				

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)				自己評価		市長の評価	
				ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】							
指 標		福岡市民病院					
		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値				
新規紹介患者数 (人)		4,530	4,613				
紹介率 (%)		101.4	114.4				
逆紹介率 (%)		208.2	191.2				
オープン カンファレ ンス	回数 (回)	41	53				
	参加者数 ※1 (人)	390	432				
登録医療機関数 (施 設)		314	328				
退院調整件数 ※2 (件)		1,192	1,381				
※1 院外参加者数のみ							
※2 入退院支援加算1・介護支援連携指導料の合 計件数							
【自己評価の判断理由】							
○ 目標値については全て目標を上回った。ま た開放型登録医や連携施設等と対面でのカン ファレンス等を再開するなど、コロナ5類移 行後の新たな取組も開始した。年度計画を順 調に実施していると判断し、自己評価は 「3」とする。							

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (3) 災害・感染症等への適切な対応
中期計画	年度計画
(3) 災害・感染症等への適切な対応 災害・感染症等の発生時やその他の緊急時には、福岡市及び関係機関との連携の下、迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たすとともに、他の自治体等において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、患者受入れや医療従事者の派遣など、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努める。 また、防災マニュアルやBCP(事業継続計画)の定期的な見直しを行うとともに、訓練や備蓄等、災害対応に備えた万全な体制を維持する。 ア 福岡市立こども病院 災害・感染症等の発生時やその他の緊急時には、地域の関係機関等と連携を図り、必要な医療の継続及び医療救護活動等を行うなど、中核的な小児総合医療施設としての役割を果たす。	(3) 災害・感染症等への適切な対応 ○ 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内のBCP(事業継続計画)等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えるとともに、院内防災マニュアルの周知や防災訓練の実施等を通じ、職員の防災意識を高める。 ○ 防災マニュアルやBCP(事業継続計画)の定期的な見直しを行うとともに、非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底して行い、災害発生時の万全な対応に備える。 ア 福岡市立こども病院 ○ 「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、福岡県における新型コロナウイルス感染症に係る小児救急医療の提供を行う。(再掲) ○ 新興感染症等の感染拡大時における小児感染症医療の提供体制を確保するため、PPE(個人用防護具)の備蓄及び保管体制の強化等、「平時」における有事に備えた取組を行う。 ○ 他施設等で開催される外部研修に職員を積極的に派遣するなど、危機対応能力を持った職員の育成に取り組むとともに、他の自治体において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図り、的確に医療救護活動の支援に努める。

中期目標(内容)	災害・感染症等の発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。
	また、他の自治体において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、関係機関や災害協定に基づく医療機関等との連携を図るなど、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努めること。

ア 福岡市立こども病院

高度医療を行う小児総合医療施設として、関係機関と連携を図りながら、必要な医療の継続のため医療資源を最大限活用するなど、役割に応じた適切な対応を図ること。

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価			市長の評価
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 災害発生に備え、消防計画に基づく防災訓練及び緊急時参集システムを使用した災害時参集訓練（各2回）を実施するとともに、病院施設の被害状況確認及び患者情報伝達など災害対策本部におけるクロノロジー（時系列記録）の作成を主体とした大規模災害発生直後の初動訓練を実施し、職員の災害対応力の向上を図った。 ○ 院内の防災委員会において、BCP（事業継続計画）の点検を行い、大規模災害時のアクションカードの更新を行うとともに、半年毎に非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を行い、災害発生時に万全な対応が可能となるよう備えた。 ○ コロナの5類移行後においても「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」（令和5年9月末まで）及び「コロナ患者の入院受入れ実施医療機関」（令和5年10月以降）として、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供するとともに、「免疫負債※」によりコロナ対策緩和後に生じたコロナ以外の感染症の大きな流行（ヘルパンギーナや咽頭結膜熱、溶連菌感染症等の1定点医療機関あたり患者数が過去10年で最多）で急増した小児救急患者に適切な医療を提供した。 ※コロナ禍の徹底した感染予防策等により、感染症にかかることが少なくなり、多くの子どもが免疫を持たないまま成長した状態。 ○ 国や県と備蓄在庫の情報を共有し、N95マスク等のPPE（個人用防護具）や消毒液等の必要在庫の確保に努め、新興感染症等の感染拡大時における小児感染症医療の提供体制を整備した。 ○ BCP策定研修（福岡県）、災害看護研修（福岡県看護協会）及び災害医療ロジスティクス研修（熊本大学病院）に職員を派遣（延べ19人）し、危機対応能力を持った職員の育成に取り組んだ。	2	4	4	○ 災害への対応訓練の実施や備蓄物品の確保等に加え、各種研修への派遣を通じて職員の対応力向上に取り組む等、災害対応に備えた体制整備に着実に取り組んだ。 ○ 小児のコロナ感染患者への対応に加え、急増したコロナ以外の感染症による救急患者への対応に積極的に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指 標	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	指 標	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値
訓練開催数 (回)	3	4	5	訓練開催数 (回)	6	5
災害時参集訓練 参加率 (%)	—	—	90	災害時参集訓練参 加率 (%)	92.1	90

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指 標	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値				
訓練開催数（回）	5	6				
災害時参集訓練参 加率（％）	98.4	98.3				
【自己評価の判断理由】						
○ 大規模災害発生を想定した初動訓練の実施 やP P E（個人用防護具）等の必要在庫の確 保、外部研修への派遣による危機対応能力を 持った職員の育成など、事業を継続するため に必要な取組を確実に行った。 また、コロナの5類移行後においても、引 き続き小児のコロナ感染患者に対する小児救 急医療を提供するとともに、「免疫負債」に よりコロナ対策緩和後に生じたコロナ以外の 感染症の大きな流行で急増した小児救急患者 に適切な医療を提供するなど、年度計画を上 回って実施していると判断し、自己評価は 「4」とする。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (3) 災害・感染症等への適切な対応
中期計画	年度計画
(3) 災害・感染症等への適切な対応 災害・感染症等の発生時やその他の緊急時においては、福岡市及び関係機関との連携の下、迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たすとともに、他の自治体等において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、患者受入れや医療従事者の派遣など、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努める。 また、防災マニュアルやBCP(事業継続計画)の定期的な見直しを行うとともに、訓練や備蓄等、災害対応に備えた万全な体制を維持する。 イ 福岡市民病院 災害発生時やその他の緊急時においては、必要な医療の継続及び救護活動を実施するとともに、感染症発生時においては、感染症指定医療機関として、他の医療機関等との連携を図りながら、福岡市における対策の先導的かつ中核的な役割を果たす。	(3) 災害・感染症等への適切な対応 ○ 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内のBCP(事業継続計画)等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えるとともに、院内防災マニュアルの周知や防災訓練の実施等を通じ、職員の防災意識を高める。 ○ 防災マニュアルやBCP(事業継続計画)の定期的な見直しを行うとともに、非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底して行い、災害発生時の万全な対応に備える。 イ 福岡市民病院 ○ 他の自治体において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなど、的確に医療救護活動の支援に努める。 ○ 新型コロナウイルス感染症対応については、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、引き続き福岡市の中核的な役割を果たす。 ○ 今後の新興感染症発生時においては、感染症指定医療機関として、他の医療機関等との連携を図りながら、いち早く体制を整備し福岡市における対策の先導的かつ中核的な役割を果たす。

中期目標(内容)	災害・感染症等の発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。
	また、他の自治体において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、関係機関や災害協定に基づく医療機関等との連携を図るなど、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努めること。

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 市立病院としての役割を果たすため、災害発生に備え、緊急時参集システムを使用した災害時参集訓練を2回実施し、職員の防災意識及び対応力を高めるとともに、BCP（事業継続計画）や災害時の患者対応フローの見直しを行った。併せて非常用発電設備及び備蓄物品の点検等を徹底した。 ○ 1月に発生した能登半島地震に際しては、日本医師会が組織するJMAT（日本医師会災害医療チーム）派遣に協力し、1月21日から24日に医師1人、看護師1人、薬剤師1人、事務員1人の災害医療チームを派遣した。 ○ コロナ対応については、5月8日の5類移行までは感染症病棟（4床）、一般病棟（49床）、CCU（4床）計57床の病床確保を継続し、5類移行後は、感染動向等を踏まえながら、9月30日までは臨機応変に23床から57床の病床確保を継続した。 10月1日以降は、コロナ受入病床は4床としながらも、感染状況や他院の受入状況に応じて、ゾーニングではなく個室管理を前提とした14床までの受入対応を行った。 コロナ対策本部での毎朝・夕の情報共有、週1回の実務者会議における課題と対策の検討及び共有を継続して行ったほか、令和4年度に設置したICIC（感染対策情報発信センター）における病院ホームページを使った情報発信や、地域の医療機関等と合同で感染対策訓練を実施するなど、地域における感染対策の質向上に資する取組を継続した。 コロナの経験を踏まえ、患者受入れに際した行政（保健所・検疫所）との連絡の迅速化が必要であるため、福岡検疫所と情報伝達をIT（情報技術）化する仕組みを共同で検討し訓練を実施した。	2	4	4	○ コロナへの対応については、5類移行後も、重症化リスクのある患者の受入れを継続するとともに、BCP（事業継続計画）等の見直し等に加え、地域の医療機関等と合同で感染対策訓練を実施するなど、求められる役割の遂行に引き続き取り組んだ。 ○ また、今後の新興感染症対策として感染管理認定看護師の育成・増員に計画的に取り組むとともに、令和6年1月の能登半島地震については、職員を派遣し被災地支援を行うなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画																							
【目標値】 <table><tr><th>指 標</th><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>訓練開催数 (回)</td><td>6</td><td>4</td><td>6</td></tr><tr><td>災害時参集訓練参加率 (%)</td><td>—</td><td>—</td><td>90</td></tr></table>				指 標	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	訓練開催数 (回)	6	4	6	災害時参集訓練参加率 (%)	—	—	90	【目標値】 <table><tr><th>指 標</th><th>令和3年度 実績値</th><th>令和5年度 目標値</th></tr><tr><td>訓練開催数 (回)</td><td>3</td><td>5</td></tr><tr><td>災害時参集訓練参加率 (%)</td><td>96.0</td><td>90</td></tr></table>			指 標	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	訓練開催数 (回)	3	5	災害時参集訓練参加率 (%)	96.0	90
				指 標	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																				
				訓練開催数 (回)	6	4	6																				
				災害時参集訓練参加率 (%)	—	—	90																				
指 標	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値																									
訓練開催数 (回)	3	5																									
災害時参集訓練参加率 (%)	96.0	90																									
				</																							

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価										
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど									
○ コロナ対応の経験を踏まえ、随時、感染症に係る対応手順やマニュアル等の見直しを行ったほか、今後の新興感染症発生時に必要とする人員体制について検証を行い、有事に備え、平時においても救急部の人員体制を強化する計画を立案した。 また、感染管理認定看護師を段階的に増員する計画を立案。令和5年度に感染管理認定看護師1人の資格取得と認定看護師教育課程に1人の受講が決定した。 【実績値】 <table><tr><th>指 標</th><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>訓練開催数（回）</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>災害時参集訓練参加率（％）</td><td>98.3</td><td>99.9</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コロナ対応については5類移行後も病床確保を継続し、重症化リスクのある患者の受入を継続し、今後の新興感染症対策として感染管理認定看護師の増員も計画的に実施している。能登半島地震については災害派遣を行い、目標値もすべて達成しており、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。	指 標	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	訓練開催数（回）	5	5	災害時参集訓練参加率（％）	98.3	99.9				
指 標	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値											
訓練開催数（回）	5	5											
災害時参集訓練参加率（％）	98.3	99.9											

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
	2 患者サービス (1) 患者サービスの向上

中期計画	年度計画																			
(1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者及び家族の多様なニーズを的確に捉えた上で、ボランティアなどとの連携を図るとともに、ICT（情報通信技術）の積極的な活用等により、効率的かつ効果的な患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。	(1) 患者サービスの向上 ア 福岡市立こども病院 ① 退院時アンケート等やホームページによる患者・家族からの意見等を踏まえ、ICT（情報通信技術）を活用し、患者及び家族の利便性の向上を図る。 コロナ禍におけるボランティアの活動基準を明確にし、積極的にボランティアとの連携を図るとともに、新型コロナウイルス感染症等に配慮したイベント等を企画し、療養中の患者及び患者家族の満足度の向上を図る。 ② 患者家族の医療等の相談について、相談支援窓口において適切に対応する。 ③ 院内の接遇・療養環境委員会を中心に、関係部署とも協議しながら、院内環境を整備し、患者・家族の療養環境改善を図る。																			
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="3">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）</td><td>89.0</td><td>89.0</td><td>89.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等	指 標	福岡市立こども病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.0	89.0	89.0	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和5年度 目標値</th></tr><tr><td>退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）</td><td>89.8</td><td>89.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等	指 標	福岡市立こども病院		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.8	89.0
指 標		福岡市立こども病院																		
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																	
退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.0	89.0	89.0																	
指 標	福岡市立こども病院																			
	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値																		
退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.8	89.0																		

中期目標(内容)	選ばれる病院であり続けるため、ＩＣＴ（情報通信技術）の積極的な活用などにより、効率的かつ効果的なサービスの展開に努めるほか、ボランティア等との連携を図ることにより、多様な市民・患者一人ひとりの視点に立った患者サービスの向上に努めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
ア 福岡市立こども病院 ① コロナの5類移行後も、引き続き感染症等に配慮しながら、地元プロスポーツ球団等の病棟慰問やクリスマス会等のイベントについて、コロナ以前と同様の形で再開するとともに、いのちのたび博物館との協働による「オンライン博物館」などICT（情報通信技術）を活用したイベントを開催するなど、患者サービスの向上に努めた。 また、患者及び患者家族の利便性の向上を図るため、スマートフォンアプリを利用した患者呼出システムの導入準備を行い、3月に試験運用を開始した。 ② 医療・福祉・療育に関する相談や在宅療養生活への支援、転医・転院等に関する相談について、相談支援窓口において、適宜適切な対応を行った。 ③ 退院時アンケートによる意見や要望等を踏まえ、病室の付添者用ソファベッドの更新や病棟の自動販売機の増設、院内無料Wi-Fiの増設など、院内環境の整備を行い、施設利用者の利便性向上を図った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td><td>89.4</td><td>90.2</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等	指 標	福岡市立こども病院		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	89.4	90.2	2	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、退院時アンケートの要望等を踏まえて自動販売機や院内無料Wi-Fiを増設するなど、施設利用者の利便性向上に取り組み、新たにスマートフォンアプリを利用した患者呼出システムの導入を図るなど、患者サービス向上に着実に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指 標		福岡市立こども病院										
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値										
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	89.4	90.2										

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ オンライン博物館の開催やスマートフォンアプリを利用した患者呼出システムの導入準備など、ＩＣＴ（情報通信技術）の活用による患者サービス及び利便性の向上に取り組むとともに、退院時アンケートの意見等を踏まえ院内環境を整備するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「３」とする。				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
	2 患者サービス (1) 患者サービスの向上

中期計画	年度計画																			
(1) 患者サービスの向上 ①患者満足度調査等を実施し、患者及び家族の多様なニーズを的確に捉えた上で、ボランティアなどとの連携を図るとともに、I C T（情報通信技術）の積極的な活用等により、効率的かつ効果的な患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。	(1) 患者サービスの向上 イ 福岡市民病院 ① 職員の接遇及び療養環境等に関する患者満足度調査や外来待ち時間調査、入院患者への食事アンケート等を引き続き実施し、患者のニーズを的確に把握して改善を図る。 ② 患者・家族等からの医療・福祉に関する相談等について、患者サポート相談窓口を中心に適切に対応する。 ③ 病院施設の老朽化が進んでいるため、病棟内の療養環境改善や保全に努める。病棟デイルームについては、感染対策やプライバシーに配慮した環境を整える。																			
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="3">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>89.6</td><td>89.8</td><td>89.8</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・ 接遇、療養環境、食事内容、診療内容等	指 標	福岡市民病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	89.6	89.8	89.8	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和5年度 目標値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>90.1</td><td>90.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・ 接遇、療養環境、食事内容、診療内容等	指 標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.1	90.0
指 標		福岡市民病院																		
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																	
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	89.6	89.8	89.8																	
指 標	福岡市民病院																			
	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値																		
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.1	90.0																		

中期目標(内容)	選ばれる病院であり続けるため、ＩＣＴ（情報通信技術）の積極的な活用などにより、効率的かつ効果的なサービスの展開に努めるほか、ボランティア等との連携を図ることにより、多様な市民・患者一人ひとりの視点に立った患者サービスの向上に努めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
イ 福岡市民病院 ① 患者満足度調査を毎月実施し、患者のニーズを把握するとともに、職員の接遇に関する指摘等に対しては当該職員にフィードバックして指導を行うなど、改善を図った。 当院の駐車場について、出入口や提携駐車場のことなど、案内が分かりにくいと患者アンケートにおいて指摘を受け、新規に案内看板を設置して視認性の向上を図ったほか、入院生活の留意点や注意事項等の説明にあたり、オリエンテーション動画を作成してタブレットで視聴可能な環境を整備し、看護師の負担軽減と患者の理解促進のために活用した。 ② 患者又はその家族等からの医療・福祉に関する相談等（５年度2,353件）について、患者サポート窓口が中心となり適切に対応した。 ③ 病棟内の療養環境改善のため、デイルームにおいてはテレビや椅子の更新を行った。また、感染対策の観点から個人用のコップを廃止し、紙コップを使用できるティーサーバーを導入した。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和４年度 実績値</th><th>令和５年度 実績値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>90.5</td><td>91.4</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等 【自己評価の判断理由】 ○ 入院オリエンテーション動画等のＩＣＴ（情報通信技術）を活用した患者サービスの向上や、療養環境の改善に取り組むなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「３」とする。	指 標	福岡市民病院		令和４年度 実績値	令和５年度 実績値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.5	91.4	2	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、患者アンケートの要望等を踏まえ、駐車場に案内看板を設置するなど、患者及び患者家族等の利便性向上に取り組むとともに、新たに作成した入院時のオリエンテーション動画についてはインターネットで公開することで患者の利便性向上を図るなど、患者サービス向上に着実に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価３」とする。
指 標		福岡市民病院										
	令和４年度 実績値	令和５年度 実績値										
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.5	91.4										

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (2) 情報発信
中期計画	年度計画
(2) 情報発信 ホームページ等の様々な媒体を活用して、病院の持つ機能や治療実績等、積極的な情報発信に取り組むとともに、安心して受診できるように、市民に開かれた病院づくりに努める。	(2) 情報発信 ア 福岡市立こども病院 ○ 診療内容、医療サービスや、「病院指標(独自指標を含む)」に示される治療実績等について、広報誌やホームページ等を活用して分かりやすい情報発信に取り組み、患者が安心して受診できるよう、市民に開かれた病院づくりに努める。 ○ ホームページについては、子どもを対象としたコンテンツ「こどものページ」の充実を図り、子どもの年齢・発達や理解度に合わせた情報提供に取り組むとともに、外来に設置したデジタルサイネージ及びSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を活用した積極的な情報発信に取り組む。 地域の子育て世代や、元気な高齢者を対象に、多世代の交流や医療を通じて子育て・孫育てを実現することを目的として、CGG(Child Grandchild Good-Care)プログラムを地元の公民館において引き続き実施するとともに、他の地域公民館へのWeb配信について検討する等、効果的な情報発信に取り組む。

中期目標(内容)	ホームページや広報誌等により、病院の役割や医療内容等を積極的に情報発信するなど、市民・患者に開かれた病院づくりに努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 登録医宛にニュースレターを送付し、当院の取組や研修会等の案内を行うとともに、「病院指標」をホームページに公開し、一般の人にも分かりやすい解説を行った。 また、患者用クリニカルパスの更なる充実を図り、当該クリニカルパスの公開による治療内容の可視化を実施した（公開パス数：5年度15疾患、4年度14疾患）。 ○ ホームページについては、子どもを対象としたコンテンツ「こどものページ」の充実を図るため、院内の動画作成委員会を中心にブレパレーション動画の追加作成に取り組んだ。 SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用して、院内イベント等に係る情報発信を行った。 地域住民を対象に、育児への関心を高めるための取組として、地元の公民館と共同で、「こども病院生涯学習講座C G G（Child Grandchild Good-Care）」を2回開催した（7月テーマ：「こどものスキンケア」、参加者：11組19人、2月テーマ：「気になる子供と発達障害」、参加者：22人）。 10月には、福岡市総合体育館で開催されたアイランドシティフェスティバルに参加して、病院のドクターカーを展示し、車載機器の説明をするなど情報発信を行った（参加者：95組264人）。 ● 多くの子育て中の保護者に、子どもの病気や正しい対処法等の情報を届けることを目的として、1月から専門医による新聞コラム掲載を開始した。 ● 令和4年10月に設置した「こどもアレルギーセンター」において、アレルギー疾患の知識向上を目的とした保護者向けの講演会を開催した（参加者：71人）。	1	4	3	○ 病院ホームページのアクセス数が目標値をやや下回っているが、広報誌やホームページ等を活用した情報発信に取り組むとともに、専門医による新聞紙面上でのコラム掲載を開始するなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指 標	福岡市立こども病院			指 標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値
病院ホームページ のアクセス数 (件)	377,866	400,000	400,000	病院ホームページ のアクセス数 (件)	395,980	400,000
広報誌発行 回数 (回)	3	4	4	広報誌発行回数 (回)	4	4

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指 標	福岡市立こども病院					
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値				
病院ホームページ のアクセス数 (件)	425, 524	373, 238				
広報誌発行回数 (回)	4	4				
【自己評価の判断理由】 ○ 広報誌やホームページ等を活用した情報発信を行うとともに、地域住民を対象とした講座を継続して開催した。 また、子育て中の保護者を対象とした専門医による新聞コラムの掲載を開始するとともに、こどもアレルギーセンターにおいて、保護者向け講演会を開催するなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
	2 患者サービス (2) 情報発信

中期計画	年度計画																										
(2) 情報発信 ホームページ等の様々な媒体を活用して、病院の持つ機能や治療実績等、積極的な情報発信に取り組むとともに、安心して受診できるように、市民に開かれた病院づくりに努める。 【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="3">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>病院ホームページ のアクセス数 (件)</td><td>180,889</td><td>191,138</td><td>192,500</td></tr><tr><td>広報誌発行 回数 (回)</td><td>4</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	指 標	福岡市民病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	病院ホームページ のアクセス数 (件)	180,889	191,138	192,500	広報誌発行 回数 (回)	4	3	4	(2) 情報発信 イ 福岡市民病院 ○ ホームページや広報誌、オンラインイベントシステム等を活用して、病院の機能や役割を広く情報発信し、市民に開かれた病院づくりに努める。 また、病院案内をリニューアルするほか、ホームページのアクセス解析を行い、よりニーズの高いサイト構成を検討する。 ○ 地域住民の健康意識の向上を図るため、地域のニーズをいち早く把握して、出前講座による草の根活動に取り組む。 【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和5年度 目標値</th></tr><tr><td>病院ホームページ のアクセス数 (件)</td><td>188,774</td><td>130,000</td></tr><tr><td>広報誌発行回数 (回)</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>	指 標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	病院ホームページ のアクセス数 (件)	188,774	130,000	広報誌発行回数 (回)	4	4
指 標		福岡市民病院																									
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																								
病院ホームページ のアクセス数 (件)	180,889	191,138	192,500																								
広報誌発行 回数 (回)	4	3	4																								
指 標	福岡市民病院																										
	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値																									
病院ホームページ のアクセス数 (件)	188,774	130,000																									
広報誌発行回数 (回)	4	4																									

中期目標(内容)	ホームページや広報誌等により、病院の役割や医療内容等を積極的に情報発信するなど、市民・患者に開かれた病院づくりに努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
イ 福岡市民病院 ○ ホームページ上で、地域の医療従事者向けにＩＣＩＣ（感染対策情報発信センター）ニュースレターを計12回発信したほか、年4回の広報誌発行やWeb研修会等の開催等を通じて情報発信に取り組んだ。 ○ 地域住民の健康意識の向上と、地域に根差した情報発信を目的として出前講座を開催した（5年度8施設、延205人参加）。 ● 福岡市内の小学生・中学生に向けたキャリア教育のための教材、「小学生のためのお仕事ノート」「中学生のためのお仕事ブック」に当院の紹介を掲載し、それぞれ、市内の小学校146箇所、中学校70箇所配布され、保護者も含めた若い世代に対して当院の業務内容等を発信した。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>病院ホームページのアクセス数（件）</td><td>128,814</td><td>129,010</td></tr><tr><td>広報誌発行回数（回）</td><td>4</td><td>4</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ ホームページのアクセス数については目標値を下回ったが、新たに福岡市内の小学生・中学生に向けた情報発信に取り組み、地域の医療従事者向けの情報発信も継続して取り組み、年度計画を順調に実施していることから、自己評価は「3」とする。	指 標	福岡市民病院		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	病院ホームページのアクセス数（件）	128,814	129,010	広報誌発行回数（回）	4	4	1	3	3	○ 病院ホームページのアクセス数が目標値をやや下回っているが、医療従事者向けの広報誌発行や地域住民向けの出前講座開催に取り組むとともに、新たに福岡市内の小学生・中学生向けの情報発信に取り組むなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指 標		福岡市民病院													
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値													
病院ホームページのアクセス数（件）	128,814	129,010													
広報誌発行回数（回）	4	4													

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修
中期計画	年度計画
(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 ① 収支への影響も踏まえながら、中長期的な医療環境の変化等を見据え、優れた知識と専門性を有する人材の計画的な確保に努める。 ② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 ア 福岡市立こども病院 ① 新型コロナウイルス感染症による収支への影響も踏まえながら、適正な人員配置及び優れた知識と専門性を有する人材の計画的な確保に努める。 意欲ある研修医等の確保を目的として、SNS（ソーシャルネットワークサービス）等を活用し、カンファレンスや研修会、教育プログラム等の情報発信に努める。 看護師については、意欲ある人材を確保するため、病院説明会及び見学会を開催するとともに、専従教育担当職員による看護職員等への研修を重点的に実施するなど、職員の資質向上に努める。 ② 新規採用職員を対象とした情報セキュリティ・人権・接遇などの研修を行うとともに、全職員を対象に医療の質向上に資する研修を行うほか、過去実施した研修動画をアーカイブ配信するなど、Web研修を積極的に活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 看護師の専門性や能力の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促し、有資格者の拡大に努めるとともに、看護師以外の専門職についても、告示研修の受講支援等を行い、専門知識・技術の向上及びタスクシェアリングやタスクシフティングの更なる推進に努める。

中期目標（内容）	医療水準を向上させるため、医療環境の変化を見据え、中長期的な観点から、優れた知識と専門性を有する人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価											
	ウ エ ィ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど										
ア 福岡市立こども病院 ① 初期研修医や医学部学生を対象とした「F u k u o k a C H O P P S (Children’s Hospital Practical Pediatric Seminar)」を開催し、意欲ある研修医等の確保に努めた（５年度３回開催、延べ70人参加、４年度３回開催、延べ73人）。 看護学生の実習（延べ325人）を積極的に受け入れるとともに、看護学生等を対象とした「病院説明会・見学会」を７回開催し、延べ214人（４年度５回開催、延べ195人参加）の参加を得るなど、意欲ある人材の確保に努めた。 また、専従教育担当職員が中心となり、新人看護職員を対象とした研修を計画的に開催し、看護職員の資質向上に努めるとともに、他施設に従事する新人看護職員を対象にした小児看護研修を１回開催し、22人（４年度２回開催、延べ103人 W e b 開催）の参加を得るなど、小児専門病院としての役割遂行に努めた。 ② 新規採用職員を対象とした情報セキュリティ・倫理・医療接遇等の研修を行うとともに、全職員を対象に医療の質向上研修（テーマ：「医療事故を経験した医療者への組織的サポート」）を実施した。 また、新規採用職員を対象に、４年度に実施した心理的安全性に係る研修動画のアーカイブ配信を行った。 ③ 専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促進し、令和６年度皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の受講（１人）が決定するなど、有資格者の拡大に努めた。 【当該支援制度による資格取得者】 <table><tr><td>専門看護師（１分野）</td><td>１人</td></tr><tr><td>認定看護師（５分野）</td><td>６人</td></tr><tr><td>認定看護管理者ファーストレベル</td><td>３人</td></tr><tr><td>セカンドレベル</td><td>４人</td></tr><tr><td>サードレベル</td><td>４人</td></tr></table> （令和６年３月末現在）	専門看護師（１分野）	１人	認定看護師（５分野）	６人	認定看護管理者ファーストレベル	３人	セカンドレベル	４人	サードレベル	４人	2	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、病院説明会の開催等による意欲ある人材の確保や、計画的な研修の実施、認定看護師等資格取得者の拡大等、人材育成に積極的に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価３」とする。
専門看護師（１分野）	１人													
認定看護師（５分野）	６人													
認定看護管理者ファーストレベル	３人													
セカンドレベル	４人													
サードレベル	４人													

中期計画				年度計画		
【目標値】 (単位：%)				【目標値】 (単位：%)		
指 標	福岡市立こども病院			指 標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値
医療の質向上 研修受講率	—	—	90	医療の質向上 研修受講率	92.7	90

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】 (単位:%)						
指 標	福岡市立こども病院					
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値				
医療の質向上 研修受講率	95.3	95.3				
【自己評価の判断理由】 ○ 意欲ある人材確保に向けた取組の実施、 新人看護職員等への計画的な研修の実施、 他施設に従事する新人看護職員を対象とし た研修の開催、認定看護師等資格取得支援 制度を活用した有資格者の拡大など、年度 計画を順調に実施していると判断し、自己 評価は「3」とする。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修
中期計画	年度計画
(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 ① 収支への影響も踏まえながら、中長期的な医療環境の変化等を見据え、優れた知識と専門性を有する人材の計画的な確保に努める。 ② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 イ 福岡市民病院 ① 医師、看護師を始め職種ごとに、医業収益に見合った定数管理を確実に実行することで、職員の適正数の確保に努める。 I C T (情報通信技術) の活用等による業務の効率化を推進するなど、ワーク・ライフ・バランスの推進に継続的に取り組み、年次有給休暇の取得率の向上や時間外勤務の縮減に努め、職員が働きやすい職場環境づくりを推進するとともに、優れた人材の確保に努める。 ② 新規採用職員を対象とした情報セキュリティや人権、接遇研修のほか、全職員を対象とした医療の質向上に資する研修等を実施するなど、院内研修の充実を図るとともに、外部の専門研修等も活用しながら職員の資質向上を図る。 ③ 看護部においては、認定看護師等資格取得支援制度を活用した積極的な資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図るとともに看護師の特定行為について、令和4年度に整備した医師の手順書に基づきタスクシェアリングを実践する。また、看護部以外の部門においても、専門職としての知識・技術の向上を図るため、資格取得支援制度の充実に努めるとともに、タスクシェアリングやタスクシフティングに向けた職員の資質向上に積極的に取り組む。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医療環境の変化を見据え、中長期的な観点から、優れた知識と専門性を有する人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 看護師について7対1看護基準を維持しながら、派遣会社を活用して看護師を確保するなど、看護職員の負担軽減を図った。また、意欲ある人材を確保するため、感染予防対策を十分に行った上で、看護学校実習生を延1,343人(4校)受け入れた。また、看護部のPR動画を作成し、就職説明会や病院見学会等で活用し、採用に係る理解を深めることに取り組んだ。 職員の育児休業等による欠員に対して、代替職員の配置を適宜行うなど職種ごとの定数管理を確実に行った。 医師の働き方改革に対応するため、10月に稼働開始した勤怠管理システムにおいてリアルタイムに時間外労働時間を把握しながら、A水準の取得に向けて副院長をリーダーとした働き方改革コアメンバー会議にて適正な労働時間管理を実施するとともに、院内のワーク・ライフ・バランス推進委員会において、引き続き、年次有給休暇の取得率向上に向けた周知活動に取り組んだほか、感染対策の強化に伴う職員の休憩スペースとして、宿舍の3室を確保するなど、職員が長く働き続けられる職場環境づくりを推進した(看護職員離職率:5年度8.9%、4年度7.3%)。 ② 感染予防対策を十分に行った上での集合研修や、オンラインイベントシステムを活用したWeb研修や勉強会等を院内で適宜開催するとともに、職員へ外部研修の積極的な参加を促進するなど、職員の資質向上に取り組んだ。 ③ 専門職としての知識や技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度を活用するとともに、職務に必要な資格取得や研修受講等を積極的に促進した。当院で開講する特定行為研修についても、3人(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:2人、術中麻酔管理領域:1人)の受講が修了した。	2	4	4	○ 指標は目標値を上回っており、配置基準に必要な職員を着実に確保・配置しつつ、ワーク・ライフ・バランス推進の取組や、意欲ある人材を確保するための実習生の受入れを継続した。 ○ また、病院に求められる役割の達成に向け、認定看護師の資格取得支援のほか、特定行為研修等について計画的な取組を進めるなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】 (単位：%)				【目標値】 (単位：%)		
指 標	福岡市民病院			指 標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値
医療の質向上 研修受講率	—	—	90	医療の質向上 研修受講率	96.0	90.0

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
また、「タスクシフト／シェアワーキングチーム」にて、20項目39人の資格取得やスキルアップ支援を実施し、タスクシフト及びタスクシェアの推進を図った。 【看護部の主な資格取得と講習会受講】 ・認定看護管理者教育課程サードレベル修了1人 ・認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了2人 ・認定看護管理者教育課程セカンドレベル修了1人 ・感染管理認定看護師1人 ・がん薬物療法看護認定看護師1人 ・福岡大学大学院医学研究科看護学専攻の修士（クリティカルケア領域）1人 ・認定看護師教育課程（B課程）「緩和ケア」研修修了1人 ・特定行為研修修了（術中麻酔管理領域）2人 ・特定行為研修修了（栄養及び水分管理に係る）2人 ・医療安全管理者養成研修修了1人 ・栄養サポートチーム（NST）専門療法士研修1人 ・「看護補助体制充実加算」の施設基準に該当する研修3人 ・脳卒中相談窓口多職種講習会8人 ・両立支援コーディネーター5人 ・日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡技師1人 ・心不全療養指導士1人 ・急性期ケア専門士1人 ・臨床スキンケア看護師1人 ・九州ストーマリハビリテーション講習会1人 ・3学会合同呼吸療法認定士1人 ・心電図検定2級1人 ・令和5年度 福岡県看護職員認知症対応力向上研修1人 ・新人看護職員【研修責任者研修】1人 ・新人看護職員【教育担当者研修】2人 ・新人看護職員【実地指導者研修】3人 【実績値】（単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>医療の質向上 研修受講率</td><td>100</td><td>99.6</td></tr></table>	指 標	福岡市民病院		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	医療の質向上 研修受講率	100	99.6				
指 標		福岡市民病院										
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値										
医療の質向上 研修受講率	100	99.6										

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 目標値を達成するとともに、ワーク・ライフ・バランス推進の取組等を継続して行った。また、意欲ある人材を確保するため、感染対策を講じた上で実習生の受入れを継続したほか、職員向け研修会等の開催や資格取得の推進に努め、感染管理認定看護師に1名合格する等、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。				

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
中期計画	年度計画
(2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心に医療安全に関する情報の収集・分析及び院内研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 医療の質の確保・向上のため、第三者機関による外部評価等を活用するとともに、チーム医療の実践や多職種による患者指導の充実など、安全・安心な医療を提供する。	(2) 信頼される医療の実践 ア 福岡市立こども病院 ① 感染対策室、院内感染対策委員会及びICT（感染制御チーム）の連携により、院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心とした Team STEP S[®]（Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety）の推進によるリスクマネジメントや、医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 新型コロナウイルス感染症に対応するため、引き続きCOVID-19対策本部を中心とした、組織横断的な協力体制を維持するとともに、ICT（情報通信技術）の活用等によるCOVID-19対策の効率化を図る。 ② クリニカルパスの充実により、ケアの標準化、均質化を図り、医療の質の向上に努めるとともに、その活用による治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセントやインフォームド・アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 令和3年5月に、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施した病院機能評価で明らかとなった課題に対して、継続して取り組んでいる質改善活動の自己評価を行い、認定機関による3年目の確認を受けるとともに、多職種によるチーム医療及び患者指導の充実を図り、安全・安心な医療を提供する。 薬剤師による集中治療系病棟における薬物療法への関与や全病棟におけるTPN（中心静脈栄養輸液）無菌調製に加え、集中治療系病棟以外の病棟についても薬剤師を配置し、良質な薬物療法を実施するとともに、医師及び看護師の負担軽減を図る。

中期目標(内容)	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。				
	また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。				

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 専従の感染管理認定看護師を配置した感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携を推進するとともに、地域の医療機関とのカンファレンスを4回、相互訪問ラウンドを2回実施するなど、感染防止対策の強化を図った。 また、医療安全管理室による、リスクマネジメントや医療従事者への教育を目的としたTeam STEP PS® (Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety) 推進の研修会を開催（5年度6テーマ、4年度7テーマ）するとともに、事例紹介等による注意喚起を目的とした医療安全ニュースを発行（5年度4回、4年度6回）するなど、医療安全対策の強化を図った。 ② 職員向けクリニカルパス勉強会を1回（4年度1回）開催し、クリニカルパス委員会を中心とした普及・啓発活動を行った結果、クリニカルパスの数が増加した（5年度58種類、60疾患、4年度57種類、60疾患）。退院患者の45.3%（4年度39.9%）に使用され、ケアの標準化、均質化が図られた結果、医療の質に寄与した。 ③ 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施した病院機能評価の認定から3年目となる令和5年度は、「期中の確認」として各評価項目に係る取組状況の確認及び自己評価を行った。 また、診療録の記載内容に係る改善活動として、院内のケアプロセス形式監査を3回実施するなど、令和3年5月に認定を受けた病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組んだ。 薬剤師によるTPN（中心静脈栄養輸液）無菌調製に加え、10月から薬剤師の集中治療系病棟以外の病棟への配置を段階的に開始し、薬剤師の薬物療法への関与による医療安全の確保や医師及び看護師の負担軽減を図った。	2	4	4	○ 院内外の連携による感染防止対策の強化や薬剤師の集中治療系病棟以外の病棟への配置等、安全・安心な医療の提供に、着実に取り組んでいる。 ○ 全ての指標で目標値を上回るとともに、感染防止対策や医療安全対策の強化に取り組むとともに、病院機能評価で明らかとなったチーム医療強化等の課題対応に取り組むなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指 標	福岡市立こども病院			指 標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値
医療安全等の研修 開催数（回）	57	50	50	医療安全等の研修 開催数（回）	47	35
薬剤管理指導 件数（件）	4,929	3,580	5,000	薬剤管理指導件数 （件）	5,407	5,000
栄養食事指導・相談 件数（件）	1,412	1,200	1,300	栄養食事指導・相談 件数（件）	1,414	1,400

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指 標	福岡市立こども病院					
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値				
医療安全等の研修 開催数（回）	38	45				
薬剤管理指導件数 （件）	4,342	6,121				
栄養食事指導・相談 件数（件）	1,501	1,736				
【自己評価の判断理由】						
○ 全ての指標で目標を上回るとともに、感染防止対策の強化やTeam STEPPS®研修会の開催等による医療安全対策の強化など、安全・安心な医療の提供に積極的に取り組んだ。 また、病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組むとともに、薬剤師の薬物療法への関与による医療安全の確保を図るなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
中期計画	年度計画
(2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心に医療安全に関する情報の収集・分析及び院内研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 医療の質の確保・向上のため、第三者機関による外部評価等を活用するとともに、チーム医療の実践や多職種による患者指導の充実など、安全・安心な医療を提供する。	(2) 信頼される医療の実践 イ 福岡市民病院 ① 新型コロナウイルス感染症対策における経験を踏まえた院内感染防止対策を徹底するとともに、感染対策部門及び「I C I C (感染対策情報発信センター)」を中心とした研修会や訓練、地域の医療機関等との合同カンファレンスの実施を通じて、地域における感染対策の質の向上に取り組む。また、医療安全管理者を中心とした教育研修の実施や、他施設との医療安全相互チェックを継続するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② 医療の質の向上を目的としたクリニカルパスを積極的に活用し、より分かりやすいインフォームド・コンセントの徹底やホームページへの公開による治療内容の可視化等、患者中心の医療を実践する。 ③ 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価について、院内にプロジェクト会議を設置し、令和6年度中の更新に向けた準備を進める。

中期目標(内容)	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 感染症専門医を中心に、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携により院内感染防止対策を徹底するとともに、他病院との共同カンファレンス（3回）や相互ラウンド（2回）等を通じて、耐性菌検出状況や抗菌薬適正使用への取組、感染対策に関する情報交換、第三者的視点からの相互評価等を行った。 また、医療安全対策地域連携ネットワークにおいて、参加施設間での意見交換・相互評価を実施（3回）し、自院だけでなく地域における医療安全対策の質の向上に取り組んだ。 ② 医療の質の向上を目的としたクリニカルパスを積極的に活用し、より分かりやすいインフォームド・コンセントの徹底やホームページへの公開（公開パス数：5年度37疾患）による治療内容の可視化等、患者中心の医療を実践した。 ③ 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価について、コロナ禍の影響で受審予定が令和7年度に延期となったことに伴い、プロジェクト会議の設置を令和6年度に変更した。 ● 令和4年度に作成した手順書に準じた看護師の特定行為「気管カニューレ交換」について、22件実施するとともに、新たに「高カロリー輸液の投与量調整」、「脱水症状に対する輸液による補正」の手順書が院内の特定行為研修管理委員会で承認され、タスクシフトやタスクシェアを推進するとともに、患者の安全性を確保しつつ、QOL（Quality of life）の向上を図った。 ● 看護部において、病棟勤務の看護師が手術室や心カテ室、アンギオ室など所属部署とは異なる部署の看護を学ぶ「院内留学研修」を実施し、看護ケアの質の向上に取り組んだ。	2	3	3	○ 栄養食事指導・相談件数やがん患者指導件数では目標を下回っているが、薬剤管理指導件数は前年比で大きく増加し目標値とほぼ同水準を達成している。 指標設定項目以外では、医療安全に関する各種取組やタスクシフト／シェアの推進に加え、コロナ患者に対する褥瘡管理の論文発表など、全体として年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画																																										
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="3">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>医療安全等の研修 開催数（回）</td><td>26</td><td>16</td><td>28</td></tr><tr><td>薬 剤 管 理 指 導 件数（件）</td><td>9,588</td><td>7,612</td><td>9,000</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相談 件数（件）</td><td>1,144</td><td>806</td><td>1,098</td></tr><tr><td>がん患者指導 件数（件）</td><td>8</td><td>24</td><td>30</td></tr></table>				指 標	福岡市民病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	医療安全等の研修 開催数（回）	26	16	28	薬 剤 管 理 指 導 件数（件）	9,588	7,612	9,000	栄養食事指導・相談 件数（件）	1,144	806	1,098	がん患者指導 件数（件）	8	24	30	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和5年度 目標値</th></tr><tr><td>医療安全等の研修 開催数（回）</td><td>25</td><td>25</td></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 （件）</td><td>7,231</td><td>7,220</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相談 件数（件）</td><td>763</td><td>1,110</td></tr><tr><td>がん患者指導件数 （件）</td><td>72</td><td>90</td></tr></table>			指 標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	医療安全等の研修 開催数（回）	25	25	薬剤管理指導件数 （件）	7,231	7,220	栄養食事指導・相談 件数（件）	763	1,110	がん患者指導件数 （件）	72	90
					指 標	福岡市民病院																																								
				令和元年度 実績値		令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																																							
				医療安全等の研修 開催数（回）	26	16	28																																							
				薬 剤 管 理 指 導 件数（件）	9,588	7,612	9,000																																							
				栄養食事指導・相談 件数（件）	1,144	806	1,098																																							
がん患者指導 件数（件）	8	24	30																																											
指 標	福岡市民病院																																													
	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値																																												
医療安全等の研修 開催数（回）	25	25																																												
薬剤管理指導件数 （件）	7,231	7,220																																												
栄養食事指導・相談 件数（件）	763	1,110																																												
がん患者指導件数 （件）	72	90																																												

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																		
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																	
● コロナ患者に対する直接的ケアを制限した状況下における褥瘡対策を確立し、その結果、コロナ患者に係る新規褥瘡発生数や褥瘡重症度を低く抑えることができた。その成果について、「COVID-19患者に対する褥瘡管理の取り組み」として論文にまとめ、日本褥瘡学会誌に掲載された。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>医療安全等の研修 開催数（回）</td><td>26</td><td>25</td></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 （件）</td><td>5,925</td><td>7,207</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相談 件数（件）</td><td>1,001</td><td>845</td></tr><tr><td>がん患者指導件数 （件）</td><td>84</td><td>68</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コロナの影響により、引き続き患者数が減少したことで、薬剤管理指導件数、栄養食事指導・相談件数、がん患者指導件数については目標を下回った。しかし、薬剤管理指導件数については目標を下回ったものの令和4年度からは大幅に件数が増加した。新たに特定行為の手順書を作成し、コロナ患者に対する褥瘡管理の論文が学会誌に掲載されるなど、医療の質向上に寄与する活動を継続して実施し一定の成果を得たことから、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。	指 標	福岡市民病院		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	医療安全等の研修 開催数（回）	26	25	薬剤管理指導件数 （件）	5,925	7,207	栄養食事指導・相談 件数（件）	1,001	845	がん患者指導件数 （件）	84	68				
指 標		福岡市民病院																			
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値																			
医療安全等の研修 開催数（回）	26	25																			
薬剤管理指導件数 （件）	5,925	7,207																			
栄養食事指導・相談 件数（件）	1,001	845																			
がん患者指導件数 （件）	84	68																			

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実
中期計画	年度計画
① 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ② 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。	① 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ② 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。 企画情報推進室を中心として、情報システムの管理やセキュリティの強化、I T (情報技術) リテラシー向上のための教育、D X (Digital Transformation) の推進等について、機構全体で一体的なマネジメントを行う。 福岡市立こども病院においては、S a T (戦略的分析チーム) による定期的なプレゼンテーションを通じて、病院運営や経営改善に資する提案を行っていく。また、D X (Digital Transformation) については、ワーキングチームを中心として、I C T (情報通信技術) の活用による業務改善を推進する。 福岡市民病院においては、令和4年度に導入したR P A (Robotic Process Automation) を活用し、医事データの出力や集計等のルーチン作業を自動化するなど、業務の効率化に取り組む。

中期目標（内容）	地方独立行政法人制度の特長を活かし、各病院が自らの特性や実情を踏まえ、より機動的に業務改善ができるよう、各病院において病院長がリーダーシップを発揮し、自律性を発揮できる運営管理体制の充実を図ること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 法人運営を的確に行うため、理事会を計10回開催し、理事会の決定方針に沿って自律的な運営を行った。なお、必要に応じてWeb会議による参加の対応など運営に支障がないよう対応した。 ② 両病院ともに、病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者のニーズに対応ができるよう、執行部会議（福岡市立こども病院）や経営五役会議（福岡市民病院）等を定期的に開催し、迅速な協議や意思決定、情報の共有化を図るとともに、病院の実態に則した機動性の高い病院経営に取り組んだ。 また、運営本部と両病院合同による経営会議及び運営調整会議を毎月開催し、経営状況の把握や年度計画の進捗状況等を管理し、法人全体的な視点から、経済性・効率性の追求を徹底するなど、適切な法人運営に取り組んだほか、理事長直下の組織「企画情報推進室」において、情報システムの管理やセキュリティの強化、DX（Digital Transformation）の推進等について、機構全体で一体的にマネジメントするとともに、デジタル技術に対応した人材を育成するため、機構の全職員を対象としたDX勉強会を計7回開催した。 福岡市立こども病院においては、若手から中堅職員で構成する組織横断的な戦略的分析チーム（SAT）により、これまでプレゼンテーションで採用された提案の進捗確認を行うとともに、DX（Digital Transformation）については、院内のDXワーキングチームによる提案事項の実現に取り組み、ペーパーレス会議システムや調剤ロボット（全自動秤量散薬分包機）の導入など、ICT（情報通信技術）の活用による業務の効率化を推進した。 福岡市民病院においては、令和4年度に導入したRPA（Robotic Process Automation）を活用し、感染管理のための情報収集や各種統計作業を自動化することで業務時間の削減及び効率化を推進した。	1	3	3	○ 病院長のリーダーシップの下での機動性の高い病院経営、運営本部との連携による法人の一体的運営が図られており、また、DX（Digital Transformation）の推進に向けた取組を機構全体で進めるなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ ィ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ W e b を活用しながら理事会や経営会議等を適宜開催し、迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うなど、年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。				

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 事務部門の機能強化
中期計画	年度計画
① 経営状況や医療を取り巻く情報を整理・分析する能力など、事務部門に求められる専門性を更に高めていくため、研修の充実を図るとともに、スキルアップを支援するための制度の導入を検討する。 ② 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、情報共有の徹底やO J T (On the Job Training) の充実を図るとともに、人材育成プランを基に、職員のキャリアプランを踏まえた人事異動を通して、事務部門の更なる機能強化に努める。	① 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、事務のマニュアル化や業務の可視化等に努めるとともに、I C T (情報通信技術) の更なる活用を図り、情報共有や業務の効率化を推進する。 ② 事務部門に求められる専門性を更に高めていくため、研修の充実を図るとともに、テーマごとの職場内研修等の実施により、効果的なO J T (On the Job Training) に繋げる。また、職員一人ひとりのI T (情報技術) リテラシーの向上を図る。 職員のキャリアプランを踏まえた適材適所の人事配置に努める。

中期目標(内容)	各病院の経営支援を的確に行うことができる人材や、医療を巡る環境変化に柔軟に対応できる人材を育成するため、その専門的知識やスキルを習得するための研修を計画的に実施するとともに、市立病院としてのノウハウを確実に蓄積し、事務部門の更なる機能強化に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、運営本部及び両病院の経理担当者会議等を行った。 ② 主任級職員については、主任として求められる役割の理解とコミュニケーション能力及び判断力等の向上を目的として、昇任者及び昇任後5年目以上の職員を対象にした外部講師による研修を実施した（受講人数72人）。 また、係長級職員については、監督者に求められる役割の理解と人材育成マネジメント能力等の向上を目的として、昇任者及び昇任後5年目以上の職員を対象にした外部講師による研修を実施した（受講人数36人）。 事務部門全体の機能強化及び職員のキャリアプランを踏まえ、運営本部及び両病院間における人事異動を実施した。 福岡市立こども病院においては、中堅職員を一般社団法人日本病院会「病院中堅職員育成研修：財務・会計コース」や全国地方独立行政法人病院協議会「事務職員向けセミナー」に参加させるなど、事務職員の能力向上に努めた。 【自己評価の判断理由】 ○ 経理担当者会議等を開催するとともに、令和5年度は主任級及び係長級研修について、対象者を昇任者に加え、昇任後5年目以上の職員までに拡充し、人材育成の強化に取り組んだため、自己評価は「3」とする。	1	3	3	○ 担当者的会議等で専門的知識の共有や蓄積を図っており、また、人事異動の実施や内外の研修等の活用による職員の能力向上に取り組むことで、事務部門の機能強化に努めるなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 働きがいのある職場環境づくり
中期計画	年度計画
① 職員ニーズ等を踏まえ、福利厚生の更なる充実に取り組むとともに、育児・介護等の支援制度の利用促進や組織全体の意識改革を図り、柔軟で働きやすい職場環境の整備に努める。 ② 国の働き方改革の考え方を踏まえ、人員配置や業務の見直し等、職員の業務負担の軽減に努めるとともに、時間外勤務の適正化や年次有給休暇を取得しやすい職場環境を整備し、ワーク・ライフ・バランスの確保及び職員の健康保持に取り組む。 ③ 職員のモチベーションの維持・向上を図るため、人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、社会情勢の変化等に適合しつつ、職員の意欲を引き出すよう、人事・給与制度について、適宜、見直しを行う。	① 職員が安心して働き続けることができるよう、福利厚生の更なる充実に取り組むとともに、育児・介護等の支援制度の周知徹底はもとより、研修や会議等を通じて、所属長を始め職員の意識改革を図る。 ② 令和6年(2024年)4月に適用される「医師に対する時間外労働上限規制」に向けて、医師を始めとする各職種のタスクシェアリング及びタスクシフティング並びにICT(情報通信技術)の活用による業務の効率化を推進し、職員の業務負担の軽減に努めるとともに、時間外勤務の適正化や年次有給休暇を取得しやすい職場環境を整備し、ワーク・ライフ・バランスの確保及び職員の健康保持に取り組む。 「心の健康づくり計画」に基づき、メンタルヘルス対策に積極的に取り組み、心身ともに健康で働きやすい環境づくりを推進するとともに、引き続き職員のメンタルサポートに努める。 ハラスメント防止に向けた意識醸成を図るため、全職員を対象とした研修会を開催するとともに、新たに外部の専門家による相談体制を整備するなど、職員が安心して相談できる環境づくりに取り組む。 ③ 職員のモチベーション向上を図る観点から、医師や管理職を対象とした人事評価制度を引き続き実施するとともに、社会情勢の変化等を踏まえた人事・給与制度の改善に取り組む。

中期目標(内容)	国の働き方改革の考え方を踏まえたワーク・ライフ・バランスの実現や職員の福利厚生の実現に向けた取組を行い、職員が働きやすい職場環境の整備に努めること。 また、職員の業績や能力を公正かつ客観的に評価できるように人事評価制度の改善を行い、職員のモチベーションの維持・向上を図ること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 令和6年4月施行に向け、勤務を要しない日の振替制度の見直し、育児を行う職員の深夜勤務の制限の対象となる子の範囲の拡充及び育児を行う職員の時間外勤務の制限の対象となる子の範囲の拡充に係る検討を行うなど、安心して働き続けることができる制度の充実に取り組んだ。 また、福岡市立こども病院においては、引き続き職員への福利厚生や育児・介護等の支援制度の周知を目的とした総務課通信を3回発行した。 ② 福岡市立こども病院においては、エコー検査の施行とレポートの作成や病理解剖、C P C（臨床病理検討会）の補助業務を検査技師へ移管するなど、医師のタスクシフティングに取り組むとともに、一般病棟でのT P N（中心静脈栄養輸液）無菌調製を薬剤師が行うなど、看護師のタスクシフティングにも積極的に取り組んだ。 医療機関勤務環境評価センターから「医師の労働時間短縮に向けた医療機関内の取組は十分に行われており、労働時間短縮が進んでいる」との評価を受けた後、12月に福岡県から特定労務管理対象機関として、心臓血管外科・集中治療科はB水準及び心臓血管外科はC－2水準の指定も受けた。 また、勤怠管理システムの導入に伴い、職員への周知徹底を図り、働き方改革開始に向けて勤務時間管理への認識を深めた。 ハラスメント防止に向けた意識醸成を図るため、全職員を対象とした任意研修会を開催（60名参加）するとともに、パワーハラスメントアンケートを2回（対象部署5部署）実施した。新たに設置した外部の専門家による相談窓口には2件の相談があり、職員が安心して相談できる環境づくりに取り組んだ。	1	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、育児支援制度の拡充、医師の働き方改革の推進、各職種におけるタスクシフトの推進等、職員が働きやすい職場環境の整備に着実に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
(単位：％)				(単位：％)		
指 標	市立病院機構全体			指 標	市立病院機構全体	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値
新採・転入職員とのメンタルヘルス面談実施率	—	—	90	新採・転入職員とのメンタルヘルス面談実施率	76.8	90

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
福岡市民病院においては、医師の働き方改革推進のため、「働き方改革コアメンバー会議」にて時間外労働のモニタリング及び分析を毎月実施し、適正な労働時間管理に取り組むとともに、他職種へのタスクシフト推進のため「タスクシフト・タスクシェアワーキングチーム」にて、20項目39人の資格取得やスキルアップ支援を決定し継続的に実施している。 また、全職員に対し、W e b 動画を活用したメンタルヘルス研修（動画アクセス件数492件）を実施するとともに、ハラスメント研修については、係長職以上を対象とした外部講師による研修（受講人数134人）及びそれ以外の職員を対象とした動画視聴による参集形式による研修（受講人数1,008人）を実施した。 ③ 医師及び管理職を対象とした人事評価制度については、引き続き評価結果を業績手当へ反映するなど、職員のモチベーションの維持・向上を図った。 また、国の補助金の趣旨に則った一時金の支給を行った。 【実績値】（単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">市立病院機構全体</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>新採・転入職員とのメンタルヘルス面談実施率</td><td>97.3</td><td>98.7</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ 育児に係る支援制度拡充等の継続した検討や、両病院において各職種のタスクシフト等に取り組むとともに、ハラスメント研修の開催方法を見直すなど職場環境の改善に努めているため、自己評価は「3」とする。	指 標	市立病院機構全体		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	新採・転入職員とのメンタルヘルス面談実施率	97.3	98.7				
指 標		市立病院機構全体										
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値										
新採・転入職員とのメンタルヘルス面談実施率	97.3	98.7										

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項																												
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保																												
中期計画		年度計画																											
① 関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスの徹底を目的とした管理監督者研修などを実施することにより、チェック機能を強化し、不適切な事務処理や不祥事を未然に防止するとともに、市立病院として公平性・透明性を確保した適正な病院運営を行う。 ② 個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応する。		① 関係法令や内部規定の遵守等コンプライアンスを徹底するため、管理監督者を対象としたコンプライアンス研修を実施することにより、チェック機能を強化し、不適切な事務処理や不祥事を未然に防止する。 監事（弁護士、公認会計士）及び会計監査人による監査等の実施により、内部統制を適正に維持し、市立病院として適正な病院運営を行う。 ② 個人情報の保護及び情報公開に関しては、令和5年4月施行の改正個人情報保護法を始め、福岡市の関係条例及び当法人の情報セキュリティポリシー等に基づき、適切に対応するとともに、研修等を通じて職員の教育を徹底するほか、カルテ等の診療情報に関しては、診療録開示委員会を開催して開示の可否を決定する。																											
【目標値】（単位：％）		【目標値】（単位：％）																											
<table><tr><td rowspan="2">指 標</td><td colspan="3">市立病院機構全体</td></tr><tr><td>令和元年度 実績値</td><td>令和2年度 見込値</td><td>令和6年度 目標値</td></tr><tr><td>コンプライアンス研修受講率</td><td>—</td><td>—</td><td>100</td></tr><tr><td>情報セキュリティ研修受講率</td><td>—</td><td>—</td><td>100</td></tr></table>		指 標	市立病院機構全体			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	コンプライアンス研修受講率	—	—	100	情報セキュリティ研修受講率	—	—	100	<table><tr><td rowspan="2">指 標</td><td colspan="2">市立病院機構全体</td></tr><tr><td>令和3年度 実績値</td><td>令和5年度 目標値</td></tr><tr><td>コンプライアンス研修受講率</td><td>96.2</td><td>100</td></tr><tr><td>情報セキュリティ研修受講率</td><td>92.2</td><td>100</td></tr></table>		指 標	市立病院機構全体		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	コンプライアンス研修受講率	96.2	100	情報セキュリティ研修受講率	92.2	100
指 標	市立病院機構全体																												
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																										
コンプライアンス研修受講率	—	—	100																										
情報セキュリティ研修受講率	—	—	100																										
指 標	市立病院機構全体																												
	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値																											
コンプライアンス研修受講率	96.2	100																											
情報セキュリティ研修受講率	92.2	100																											

中期目標(内容)	医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、行動規範と倫理に従い、市立病院の運営を担う地方独立行政法人として、公平性・透明性を確保した病院運営を行うこと。 また、個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市個人情報保護条例（平成17年福岡市条例第103号）及び福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）に基づき、適切に対応すること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
① 管理監督者については、外部講師によるコンプライアンス研修を実施する等様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。 法人全体の業務の適正化及び効率化の観点から、監事（弁護士、公認会計士）による監査を受け、法令等に従い適正に実施されていると報告を受けた。 ② 個人情報保護及び情報公開に関しては、個人情報保護法に関する全職員向けの研修及び両病院、運営本部に対して監査を実施した。全職員に対する情報セキュリティ基礎知識の確認テストを用いた情報セキュリティ研修を開催して職員の教育を徹底するなど、関係法令や福岡市の条例及び当法人の情報セキュリティポリシー等に基づき、適切に対応した。 また、カルテ等の開示請求に対しては、診療録（カルテ）開示委員会で開示の可否を決定した（福岡市立こども病院45件、福岡市民病院64件）。 【実績値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">市立病院機構全体</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>コンプライアンス 研修受講率</td><td>100</td><td>98.5</td></tr><tr><td>情報セキュリティ 研修受講率</td><td>99.9</td><td>96.2</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コンプライアンスや情報セキュリティ及び個人情報保護についての研修を実施するとともに、個人情報の保護や情報公開についても適切に対応するなど、年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。	指 標	市立病院機構全体		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	コンプライアンス 研修受講率	100	98.5	情報セキュリティ 研修受講率	99.9	96.2	1	3	3	○ 指標は目標値をほぼ達成しており、また、各種研修等による職員教育の実施や診療録開示委員会の開催等、個人情報の適切な管理や、法令遵守及び公平性・透明性の確保に努めるなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指 標		市立病院機構全体													
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値													
コンプライアンス 研修受講率	100	98.5													
情報セキュリティ 研修受講率	99.9	96.2													

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項
	1 持続可能な経営基盤の確立 (1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化

中期計画	年度計画																										
(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化 市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供するため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進め、持続可能な経営基盤の確立を図る。 また、運営費負担金の趣旨を踏まえ、市立病院としての役割に応じた政策的医療を提供するとともに、自律的な運営に努め、経営改善に取り組む。	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化 ア 福岡市立こども病院 毎週開催の執行部会議、毎月開催の運営会議において、新型コロナウイルス感染症等による医療環境の変化や病院の経営状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にした上で、収益の確保及び費用削減に取り組むとともに、月次決算の実施等経営に関する情報を迅速に把握し、経営分析や他病院との比較・分析を行うなど、効率的な病院経営を行う。																										
【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="3">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>108.2</td><td>103.0</td><td>98.2 (101.2※)</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>93.4</td><td>87.2</td><td>84.5 (87.0※)</td></tr></table>	指 標	福岡市立こども病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	経常収支比率	108.2	103.0	98.2 (101.2※)	医業収支比率	93.4	87.2	84.5 (87.0※)	【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和5年度 目標値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>105.6</td><td>98.8</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>87.8</td><td>84.9</td></tr></table>	指 標	福岡市立こども病院		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	経常収支比率	105.6	98.8	医業収支比率	87.8	84.9
指 標		福岡市立こども病院																									
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																								
経常収支比率	108.2	103.0	98.2 (101.2※)																								
医業収支比率	93.4	87.2	84.5 (87.0※)																								
指 標	福岡市立こども病院																										
	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値																									
経常収支比率	105.6	98.8																									
医業収支比率	87.8	84.9																									
※ P F I (Private Finance Initiative) 契約に基づく節目の大規模修繕費用を除いて算出した場合																											

中期目標 (内容)	市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供していくため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進めるなど、経営改善に取り組み、持続可能な経営基盤を確立すること。 また、地方独立行政法人法に基づく運営費負担金の趣旨を踏まえ、公立病院としての役割を果たすとともに、自律的な運営に努めること。
--------------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
ア 福岡市立こども病院 ○ 執行部会議や運営会議を定期的開催し、コロナ禍で患者数が減少する等の厳しい状況に対して、効率的な病院経営について検討を重ね、決定事項等については迅速に所属長へ周知し、対策に取り組んだ結果、経常収支比率は目標値を上回った。 【実績値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>106.8</td><td>100.3</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>88.6</td><td>86.1</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コロナの5類移行後も、厳しい状況に対して、執行部会議等において効率的な病院経営について検討を重ね、対策に取り組んだ結果、経常収支比率及び医業収支比率が目標値を上回るなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。	指 標	福岡市立こども病院		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	経常収支比率	106.8	100.3	医業収支比率	88.6	86.1	2	3	3	○ コロナの影響が残る不透明な経営環境の中、両指標において目標値を上回っており、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指 標		福岡市立こども病院													
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値													
経常収支比率	106.8	100.3													
医業収支比率	88.6	86.1													

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項
	1 持続可能な経営基盤の確立 (1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化

中期計画	年度計画																										
(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化 市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供するため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進め、持続可能な経営基盤の確立を図る。 また、運営費負担金の趣旨を踏まえ、市立病院としての役割に応じた政策的医療を提供するとともに、自律的な運営に努め、経営改善に取り組む。	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化 イ 福岡市民病院 市立病院として求められる高度専門、救急医療を提供しながら、3年におよぶ新型コロナウイルス感染症対応に対する損失補填に依存しない持続可能な経営基盤の確保を図るため、施設基準における重症度、医療・看護必要度を維持しつつ、新規入院患者数の確保及び手術件数の増加を図るなど、収益の確保に努める。併せて、医療の質を担保しながら人員体制の最適化を図るなど、ポストコロナを見据えた収支改善に努める。																										
【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="3">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>95.8</td><td>106.2</td><td>100.1</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>87.2</td><td>82.2</td><td>90.4</td></tr></table>	指 標	福岡市民病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	経常収支比率	95.8	106.2	100.1	医業収支比率	87.2	82.2	90.4	【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和5年度 目標値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>116.1</td><td>93.3</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>79.4</td><td>83.5</td></tr></table>	指 標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	経常収支比率	116.1	93.3	医業収支比率	79.4	83.5
指 標		福岡市民病院																									
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																								
経常収支比率	95.8	106.2	100.1																								
医業収支比率	87.2	82.2	90.4																								
指 標	福岡市民病院																										
	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値																									
経常収支比率	116.1	93.3																									
医業収支比率	79.4	83.5																									

中期目標(内容)	市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供していくため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進めるなど、経営改善に取り組み、持続可能な経営基盤を確立すること。 また、地方独立行政法人法に基づく運営費負担金の趣旨を踏まえ、公立病院としての役割を果たすとともに、自律的な運営に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
イ 福岡市民病院 ○ 令和4年度に引き続き、入院料に係る厳しい施設基準の要件を満たし、急性期病院としての機能を維持するために、高度な手術が必要な新規入院患者の確保や救急搬送件数の増加に取り組むとともに、急性期を脱した患者の転院・退院調整等を促進した。 また、9月に全職員を対象に実施した「院長訓示」において、当院の経営状況等について詳細な説明を行い、病院を挙げて経営改善に向けた努力を続けていくことを周知徹底した。 上半期は、コロナ対応のための病床確保の継続や、平均在院日数の短縮等により病床利用率が低下したものの、下半期にかけて新規入院患者の確保や救急搬送件数の増加、徹底した病床管理の取組等により徐々に病床利用率が向上し、医業収益も増加した。 【実績値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>114.7</td><td>95.7</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>77.6</td><td>79.2</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コロナ5類移行後も中等症以上の患者の対応を継続したが、下半期はコロナの空床確保に関する補助金の適用がなく収入面において厳しい状況となった。上半期は病床利用率が低下したものの、下半期には向上し、経常収支比率は目標を上回ったことから、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。	指 標	福岡市民病院		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	経常収支比率	114.7	95.7	医業収支比率	77.6	79.2	2	3	3	○ コロナの影響等により、医業収支比率は目標値を下回ったものの、経常収支比率は目標値を上回ったことから、年度計画を順調に実施していると判断して、「評価3」とする。 ○ なお、経常収支比率における中期計画の目標達成を見据え、医業収支の更なる改善に向けた取組を進められたい。
指 標		福岡市民病院													
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値													
経常収支比率	114.7	95.7													
医業収支比率	77.6	79.2													

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 持続可能な経営基盤の確立 (2) 投資財源の確保
中期計画	年度計画
(2) 投資財源の確保 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。	(2) 投資財源の確保 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。

中期目標(内容)	施設整備や高額医療機器の更新など、今後の投資計画を踏まえながら、自己財源の確保に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
○ 収支改善により生じた利益については、積立てを行うなど、投資計画を踏まえた今後の投資財源の確保を図り、計画的な施設整備、高額医療機器の更新や必要な医療機器の購入等、効果的な投資を行った。 【自己評価の判断理由】 ○ 収支改善は図られており、利益の積立て等による投資財源の確保や、施設整備等の効果的な投資が図られていることから、自己評価は「3」とする。	1	3	3	○ 収支改善による利益については、多くが債務償還として活用されるなど、将来の投資活動を見越した取り組みが進められていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (1) 収益確保
中期計画	年度計画
(1) 収益確保 ① 診療体制の充実等による高度専門医療の提供に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上等に努め、収入の確保を図る。 ② 診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応して適切な施設基準の取得及び維持に取り組む。 また、診療報酬請求に係る精度を高めるようチェック体制を更に強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努めるなど、安定的な収益の確保に努める。	(1) 収益確保 ア 福岡市立こども病院 ① 循環器、周産期及び手術・集中治療センターを中心に、関連科との連携を密にし、高度専門医療、小児救急医療及び周産期医療の充実並びに病院設備の効率的な稼働を図る。 各種補助金を的確に活用することにより、収入の確保を図る。 ② 診療報酬に関する的確な情報収集に継続して取り組むとともに、施設基準管理システム等を活用し、適切な施設基準の取得及び維持管理に努める。 保険診療検討ワーキングチームを中心に、査定内容の分析・対策立案等を行うとともに、レセプト精度調査の結果を踏まえ、診療報酬請求業務の更なる精度向上に努める。 医事課職員やMSW（医療ソーシャルワーカー）による患者相談の充実等により、医療費の未収金発生防止に努めるとともに、回収困難事案については、法律事務所への業務委託によって確実な回収を図る。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的かつ確実な収益の確保に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 毎週行われる執行部会議において、各センター長を含む病院幹部による患者数・手術件数等のモニタリング及び協議を行い、効率的な病棟運用の施策を講じた。 国や県のコロナ関連補助金を含む各種補助金の把握に努め、申請事務を適切に行うことにより、収益の確保を図った。 ② 4月に導入した施設基準管理ソフトを活用し、増収に繋がる施設基準の取得及び維持に努めるとともに、令和6年度の診療報酬改定に関する的確な情報収集を行った。 院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に、査定傾向の分析に基づいて、診療報酬請求プロセスの改善活動を病院全体で実施した結果、一次査定率を低い水準に抑えることができた(5年度0.04%、4年度0.04%)。 また、レセプト精度調査を実施し、診療録及び伝票の記載状況とレセプトの整合性を突合することにより、保険請求が正確に行われているか第三者の目による確認を行い、診療報酬請求業務の更なる精度向上に努めた。 医療費の未収金については、患者相談を適宜実施し、経済状況に合わせて分納や後日支払い等の働きかけを行うことで未然に発生を防止するとともに、マニュアルに沿った対応(内容証明郵便による催告など)を行い、それでもなお回収困難な事例については弁護士事務所に委託して、確実な回収を図った。	2	3	3	○ 指標は目標値をほぼ達成しており、また、効率的な病棟の運用、各種補助金の的確な活用、増収に繋がる適切な施設基準の取得、診療報酬請求プロセスの改善や外部委託による未収金対策に努めていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】＊再掲				【目標値】＊再掲		
指 標	福岡市立こども病院			指 標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）＊	108,393	112,546	110,000	1人1日当たり 入院単価（円）＊	109,403	111,900
1人1日当たり 外来単価（円）	11,492	12,746	11,620	1人1日当たり 外来単価（円）	11,434	12,200
1日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率 （％））※＊	215.5 (90.2)	190.0 (79.5)	205.5 (86.0)	1日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率 （％））※＊	198.9 (83.2)	198.6 (83.1)
新規入院患者数 （人）＊	7,428	6,180	6,883	新規入院患者数 （人）＊	7,104	7,200
平均在院日数 （日）	9.7	9.9	9.9	平均在院日数 （日）	9.2	9.9
1日当たり 外来患者数（人）	389.5	356.1	371.4	1日当たり 外来患者数（人）	385.5	383.0
手術件数（件）＊	2,929	2,730	2,800	手術件数（件）＊	2,705	2,600
救急搬送件数 （件）＊	1,380	963	1,060	救急搬送件数 （件）＊	1,269	1,200
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出				※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】＊再掲						
指 標	福岡市立こども病院					
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値				
1人1日当たり 入院単価(円)＊	111,703	111,393				
1人1日当たり 外来単価(円)	11,500	11,279				
1日当たり入院 患者数(人)＊ (病床利用率 (％))＊＊	200.7 (84.0)	199.9 (83.7)				
新規入院患者数 (人)＊	7,486	7,760				
平均在院日数 (日)	8.8	8.4				
1日当たり 外来患者数(人)	397.0	406.2				
手術件数(件)＊	2,599	2,732				
救急搬送件数 (件)＊	1,923	1,723				
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出						
【自己評価の判断理由】 ○ 1人1日当たり入院単価及び外来単価については目標値を下回ったが、それ以外の指標で目標値を上回るとともに、レセプト精度調査や保険診療検討ワーキングチームを中心とした診療報酬請求プロセスの改善活動に取り組み、一次査定率を低く抑えるなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。						

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (1) 収益確保
中期計画	年度計画
(1) 収益確保 ① 診療体制の充実等による高度専門医療の提供に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上等に努め、収入の確保を図る。 ② 診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応して適切な施設基準の取得及び維持に取り組む。 また、診療報酬請求に係る精度を高めるようチェック体制を更に強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努めるなど、安定的な収益の確保に努める。	(1) 収益確保 イ 福岡市民病院 ① 毎朝開催する「病床管理プロジェクト会議」において、効率的なベットコントロールを行い、重症度、医療・看護必要度を維持するとともに、入院治療が必要な新入院数の確保に積極的に取り組む。また、紹介元医療機関等に対する訪問活動を通じた情報発信の強化等、紹介患者の確保に努める。 ② 適切な施設基準の取得及び維持管理に努める。また、診療報酬請求に係る精度を高めるようレセプトチェックシステムのカスタマイズを随時行い、正確なレセプト請求を行うとともに、各診療科とのカンファレンスを行い、査定率の減に取り組む。医療費の未収金については、未収金の発生防止や確実な回収に努める。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的かつ確実な収益の確保に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 副院長をリーダーとする「病床管理会議」を毎朝開催し、救急搬送患者の受入れに係る課題の共有や、病床管理システムを活用した効率的なベットコントロールを促進するとともに、特に病床利用率の向上と重症度、医療・看護必要度の維持に向けた様々な取組について情報共有を行った結果、コロナの病床確保が解除となった下半期より徐々に病床利用率を向上させながら、重症度、医療・看護必要度を維持することができた。 また、新規入院患者の確保と救急搬送件数の増加を目的とした「連携推進ワーキンググループ」を各診療科で開催し、入院の円滑な受入れのための対策や、救急受入れに係る課題の改善などに取り組んだ結果、紹介患者数、救急搬送件数ともに増加した。 ② 施設基準管理ソフトを導入し、業務の標準化を行うとともに、現状で取得している施設基準の維持に努め、新たな施設基準の届出も行った（ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー））。 また、査定内容に基づくレセプトチェックシステムのカスタマイズを随時行うとともに、査定減対策として主要診療科のカンファレンスに医事課並びに医療事務委託会社の職員が参加し、改善に関する情報提供・情報共有に努めるなど、レセプト請求の精度向上に取り組んだ。 未収金については、未収金対応マニュアルに沿って、電話及び文書による督促や分納相談等により回収を行うとともに、回収困難案件については法律事務所への業務委託を継続し、確実な回収を図った。	2	3	3	○ コロナ対応の影響等により、患者数に係る指標等で目標を下回った。一方で、収益確保に向け様々な対策に計画的に取り組み、その一つである救急搬送件数については、目標を大きく上回る成果をあげていること等から、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】《再掲》				【目標値】＊再掲		
指 標	福岡市民病院			指 標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）＊	64,081	69,327	66,300	1人1日当たり 入院単価（円）＊	78,153	73,000
1人1日当たり 外来単価（円）	22,965	24,998	23,000	1人1日当たり 外来単価（円）	24,597	24,000
1日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率 （％））※＊	183.9 (90.2)	167.5 (82.1)	190.0 (93.1)	1日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率 （％））※＊	154.0 (75.5)	173.0 (85.0)
新規入院患者数 （人）＊	4,525	4,053	4,769	新規入院患者数 （人）＊	4,048	4,750
平均在院日数 （日）	12.7	12.8	12.6	平均在院日数 （日）	12.5	11.5
1日当たり 外来患者数（人）	219.7	194.6	220.0	1日当たり 外来患者数（人）	205.9	214.0
手術件数（件）＊	3,719	3,437	3,815	手術件数（件）＊	3,877	3,800
救急搬送件数 （件）＊	2,820	2,404	3,023	救急搬送件数 （件）＊	2,565	2,850
※ 病床利用率については、総務省による公立病院 決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数× 100）に基づき算出				※ 病床利用率については、総務省による公立病 院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床 数×100）に基づき算出		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】＊再掲						
指 標	福岡市民病院					
	令和４年度 実績値	令和５年度 実績値				
１人１日当たり 入院単価（円）＊	79,493	78,480				
１人１日当たり 外来単価（円）	24,871	26,756				
１日当たり入院患者 数（人）＊ （病床利用率（％）） ※＊	144.8 (71.0)	155.6 (76.3)				
新規入院患者数（人） ＊	4,044	4,533				
平均在院日数（日）	12.0	11.6				
１日当たり外来患者 数（人）	212.0	211.5				
手術件数（件）＊	3,580	3,873				
救急搬送件数（件） ＊	3,037	3,774				
※ 病床利用率については、総務省による公立病 院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床 数×100）に基づき算出						
【自己評価の判断理由】 ○ コロナ対応の継続により空床確保の継続や 後方医療機関のクラスター発生による転院調 整の遅れにより、１日当たり入院患者数、新 規入院患者数、１日当たり外来患者数、平均 在院日数については目標値を下回ったもの の、急性期病床の入院料を維持するととも に、高度な手術や新規入院患者を確保するた めの取組を行い、収益確保に努めた。救急搬 送件数については、課題解決に取り組んだ結 果、目標を大きく上回った。年度計画を順調 に実施していると判断し、自己評価は「３」 とする。						

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (2) 費用削減
中期計画	年度計画
(2) 費用削減 ① 医療の質や医療安全の確保、患者へのサービス及び職員の労働環境等に十分配慮したうえで、職員の適正配置を行い、給与費比率の適正化に努める。 ② 診療材料や医薬品等の調達に関し、SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントと共同して、分析及びそれに基づく価格交渉の徹底、契約手法や委託業務内容の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等を行い、費用の削減を図る。 ③ 両病院ともに、適切に施設・設備のアセットマネジメントを推進する。	(2) 費用削減 ア 福岡市立こども病院 ① ICT（情報通信技術）の活用による業務の効率化を推進し、人員配置及び給与費比率の適正化に努める。 ② SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントと共同して、他の医療機関とのベンチマーク分析を行い、それに基づく価格交渉の徹底や同種同効品への切替え等を実施し、診療材料費の更なる削減に取り組むとともに、委託費等の経費全般においても、契約手法や委託業務内容の見直しによる費用削減を図る。 ③ PFI（Private Finance Initiative）事業者から予防保全を前提に提案・策定された修繕更新計画に基づき、適切に管理を行い、建物・設備の長寿命化及び維持・修繕費用の削減を図るとともに、福岡市の「省エネ・省CO2手引書」を参考に、LED照明への切替えを検討する等、効果的な省エネを推進し、光熱水費の削減に努める。
【目標値】 (単位：%)	【目標値】 (単位：%)
指 標 福岡市立こども病院 令和元年度実績値 令和2年度見込値 令和6年度目標値	指 標 福岡市立こども病院 令和3年度実績値 令和5年度目標値
給与費対医業収益比率	給与費対医業収益比率
材料費対医業収益比率	材料費対医業収益比率
うち薬品費対医業収益比率	うち薬品費対医業収益比率
うち診療材料費対医業収益比率	うち診療材料費対医業収益比率
委託費対医業収益比率	委託費対医業収益比率
ジェネリック医薬品導入率 ※	ジェネリック医薬品導入率 ※
※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。	※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。

中期目標(内容)	地方独立行政法人の会計制度に基づいた効果的かつ効率的な事業運営に努めるとともに、効果的な費用の削減に努めること。 また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化などのアセットマネジメントを推進すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																								
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																							
ア 福岡市立こども病院 ① 10月に導入された勤怠管理システムの活用により、給与処理や年次有給休暇管理等の事務業務の効率化が図られた。 ② 診療材料については、積極的にSPD（医療材料物流管理）受託業者と連携・協力し、安価な同種同効品への集約化や更なる価格交渉を行った結果、診療材料費を約800万円削減した（削減額は、SPD委託契約前年度（令和元年度）の購入単価を基準として算出）。また、経費全般においても、価格交渉や契約手法の見直しに努め、削減を図った。 ③ PFI（Private Finance Initiative）事業者から予防保全を前提に提案・策定された修繕更新計画に基づき、適切に管理を行い、建物・設備の長寿命化及び維持・修繕費用の削減を図った。 また、省エネルギーに関する推進が適切かつ円滑に行われるよう、院長を委員長とした省エネルギー推進委員会を設置し光熱水費の削減に努めた。 【実績値】 (単位：%) <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>60.3</td><td>62.1</td></tr><tr><td>材料費対医業収益比率</td><td>19.7</td><td>20.5</td></tr><tr><td>うち薬品費対医業収益比率</td><td>6.4</td><td>8.0</td></tr><tr><td>うち診療材料費対医業収益比率</td><td>13.0</td><td>12.3</td></tr><tr><td>委託費対医業収益比率</td><td>10.3</td><td>10.7</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬品導入率 ※</td><td>87.3</td><td>85.1</td></tr></table> ※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。	指 標	福岡市立こども病院		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	給与費対医業収益比率	60.3	62.1	材料費対医業収益比率	19.7	20.5	うち薬品費対医業収益比率	6.4	8.0	うち診療材料費対医業収益比率	13.0	12.3	委託費対医業収益比率	10.3	10.7	ジェネリック医薬品導入率 ※	87.3	85.1	2	3	3	○ 給与費、材料費及び薬品費対医業収益比率の指標が目標値を下回っているが、ICT（情報通信技術）を活用した業務の効率化、SPD（医療材料物流管理）事業者との連携による診療材料費の節減、施設・設備の長寿命化及び維持修繕費用の削減等に着実に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。 ○ なお、経費節減が図られていない項目については、収支改善に向け、原因分析をしっかりと行ったうえで、組織全体で計画的に取り組まれたい。
指 標		福岡市立こども病院																									
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値																									
給与費対医業収益比率	60.3	62.1																									
材料費対医業収益比率	19.7	20.5																									
うち薬品費対医業収益比率	6.4	8.0																									
うち診療材料費対医業収益比率	13.0	12.3																									
委託費対医業収益比率	10.3	10.7																									
ジェネリック医薬品導入率 ※	87.3	85.1																									

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 高額医薬品の使用量の増により、薬品費対 医業収益比率が目標値を下回ったが、ＩＣＴ （情報通信技術）を活用した事務業務の効率 化の推進やＳＰＤ（医療材料物流管理）受託 業者と連携した診療材料費の削減、省エネル ギー推進員会の設置による光熱水費の縮減に 向けた取組など、年度計画を順調に実施して いると判断し、自己評価は「３」とする。				

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項
	2 収支改善 (2) 費用削減

中期計画	年度計画																																																						
(2) 費用削減 ① 医療の質や医療安全の確保、患者へのサービス及び職員の労働環境等に十分配慮したうえで、職員の適正配置を行い、給与費比率の適正化に努める。 ② 診療材料や医薬品等の調達に関し、SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントと共同して、分析及びそれに基づく価格交渉の徹底、契約手法や委託業務内容の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等を行い、費用の削減を図る。 ③ 両病院ともに、適切に施設・設備のアセットマネジメントを推進する。	(2) 費用削減 イ 福岡市民病院 ① ICT（情報通信技術）の活用等による業務の効率化を図るとともに、職員の適正配置を行い給与比率の適正化に努める。 ② 契約2年目となるSPD（医療材料物流管理）事業者が蓄積された購買データを分析し、詳細な現状把握や他病院とのベンチマークを活用した価格交渉を行い、医業収益に対する診療材料比率の縮減等に取り組む。また、高額な医療機器の保守に関しても、状況に応じて外部コンサルタントの活用も視野に入れるなど、委託費用の更なる縮減に努める。 ③ 中長期修繕計画に基づき、維持・修繕費用の削減を図る。																																																						
【目標値】 (単位：％)	【目標値】 (単位：％)																																																						
<table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="3">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>62.9</td><td>67.2</td><td>56.6</td></tr><tr><td>材料費対医業収益比率</td><td>27.0</td><td>26.3</td><td>28.8</td></tr><tr><td>うち薬品費対医業収益比率</td><td>8.4</td><td>8.0</td><td>8.8</td></tr><tr><td>うち診療材料費対医業収益比率</td><td>18.4</td><td>18.1</td><td>19.9</td></tr><tr><td>委託費対医業収益比率</td><td>7.6</td><td>7.9</td><td>8.5</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬品導入率 ※</td><td>88.7</td><td>88.7</td><td>88.7</td></tr></table>	指 標	福岡市民病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	給与費対医業収益比率	62.9	67.2	56.6	材料費対医業収益比率	27.0	26.3	28.8	うち薬品費対医業収益比率	8.4	8.0	8.8	うち診療材料費対医業収益比率	18.4	18.1	19.9	委託費対医業収益比率	7.6	7.9	8.5	ジェネリック医薬品導入率 ※	88.7	88.7	88.7	<table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和5年度 目標値</th></tr><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>67.4</td><td>60.3</td></tr><tr><td>材料費対医業収益比率</td><td>29.3</td><td>29.4</td></tr><tr><td>うち薬品費対医業収益比率</td><td>8.0</td><td>8.4</td></tr><tr><td>うち診療材料費対医業収益比率</td><td>20.9</td><td>20.7</td></tr><tr><td>委託費対医業収益比率</td><td>8.3</td><td>8.2</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬品導入率 ※</td><td>88.3</td><td>87.9</td></tr></table>	指 標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和5年度 目標値	給与費対医業収益比率	67.4	60.3	材料費対医業収益比率	29.3	29.4	うち薬品費対医業収益比率	8.0	8.4	うち診療材料費対医業収益比率	20.9	20.7	委託費対医業収益比率	8.3	8.2	ジェネリック医薬品導入率 ※	88.3	87.9
指 標		福岡市民病院																																																					
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																																																				
給与費対医業収益比率	62.9	67.2	56.6																																																				
材料費対医業収益比率	27.0	26.3	28.8																																																				
うち薬品費対医業収益比率	8.4	8.0	8.8																																																				
うち診療材料費対医業収益比率	18.4	18.1	19.9																																																				
委託費対医業収益比率	7.6	7.9	8.5																																																				
ジェネリック医薬品導入率 ※	88.7	88.7	88.7																																																				
指 標	福岡市民病院																																																						
	令和3年度 実績値	令和5年度 目標値																																																					
給与費対医業収益比率	67.4	60.3																																																					
材料費対医業収益比率	29.3	29.4																																																					
うち薬品費対医業収益比率	8.0	8.4																																																					
うち診療材料費対医業収益比率	20.9	20.7																																																					
委託費対医業収益比率	8.3	8.2																																																					
ジェネリック医薬品導入率 ※	88.3	87.9																																																					
※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。	※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。																																																						

中期目標（内容）	地方独立行政法人の会計制度に基づいた効果的かつ効率的な事業運営に努めるとともに、効果的な費用の削減に努めること。 また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化などのアセットマネジメントを推進すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																								
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																							
イ 福岡市民病院 ① 入院生活のオリエンテーション動画を活用することで、看護師の患者説明に関する時間を削減した。12月から開始し、1カ月あたり約50時間（金額にして約10万円）の看護師業務が削減できた。 ② 昨年度に引き続き、SPD（医療材料物流管理）事業者と連携し、他病院とのベンチマーク分析をもとに、診療材料に係る価格交渉を実施した。各メーカーより原材料高騰による定価値上げが行われる中、SPD事業者と協同し、価格交渉や商品切替等により、約220万円の価格削減見込みとなった。 ③ 省エネルギー推進委員会を発足し、院内のエネルギー消費について見直す活動を開始した。 【実績値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指 標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和5年度 実績値</th></tr><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>66.7</td><td>63.8</td></tr><tr><td>材料費対医業収益比率</td><td>31.0</td><td>33.0</td></tr><tr><td>うち薬品費対医業収益比率</td><td>9.9</td><td>11.9</td></tr><tr><td>うち診療材料費対医業収益比率</td><td>20.9</td><td>21.0</td></tr><tr><td>委託費対医業収益比率</td><td>8.6</td><td>8.6</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬品導入率 ※</td><td>86.7</td><td>89.1</td></tr></table> ※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。	指 標	福岡市民病院		令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	給与費対医業収益比率	66.7	63.8	材料費対医業収益比率	31.0	33.0	うち薬品費対医業収益比率	9.9	11.9	うち診療材料費対医業収益比率	20.9	21.0	委託費対医業収益比率	8.6	8.6	ジェネリック医薬品導入率 ※	86.7	89.1	2	3	3	○ 費用の増加により、複数の項目で目標を下回ったが、IT（情報技術）を活用した業務の効率化やSPD（医療材料物流管理）事業者を活用した価格交渉などの取組に加え、新たにオリエンテーション動画を活用するなど業務効率化に向けた取組が進められており、全体としては年度計画を順調に実施していると判断し、「評価3」とする。 ○ なお、経費節減が図られていない項目については、収支改善に向け、原因分析をしっかりと行ったうえで、組織全体で計画的に取り組まれたい。
指 標		福岡市民病院																									
	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値																									
給与費対医業収益比率	66.7	63.8																									
材料費対医業収益比率	31.0	33.0																									
うち薬品費対医業収益比率	9.9	11.9																									
うち診療材料費対医業収益比率	20.9	21.0																									
委託費対医業収益比率	8.6	8.6																									
ジェネリック医薬品導入率 ※	86.7	89.1																									

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 医業収益の確保とともに、価格交渉等において可能な限りの費用削減に努めたが、給与費対医業収益比率については令和4年度から改善したものの医業収益の減少により、目標値を下回った。ジェネリック医薬品の供給不足や高額な医薬品の増加、高度専門医療提供のために高度な手術を実施したことによる高額材料の増加や物価高騰等、複数の要因が重なり、材料費対医業収益比率についても目標を下回った。しかし、I T（情報技術）を活用した業務の効率化やS P D（医療材料物流管理）事業者を活用した診療材料費の価格交渉を継続して行うなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。				

中期目標(項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 1 福岡市立こども病院における医療機能の充実
中期計画	年度計画
中核的な小児総合医療施設としての役割を果たすため、医療環境の変化等を踏まえ、高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、治験や臨床データ解析等の臨床研究、国際的な視野に立った職員の人材育成等に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展に貢献する。 また、新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用や更なる確保を目指した取組を進める。	○ 臨床研究や治験（検証的臨床試験）に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献する。 ○ 国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、研修活動等を行う。 ○ 高度医療を行う小児総合医療施設として患者の治療・救命に全力を尽くすとともに、患者・家族の選択肢の一つとして、臓器提供の申出がなされた際は円滑に対応できるよう、必要となる院内体制の維持に努める。 ○ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用等に係る取組を進める。 ○ 個人や企業からの支援確保に向け積極的な情報発信や働きかけを行い、研究基金・療養環境整備基金・患児家族滞在施設整備基金の充実を図るとともに、当該基金の有効活用を図る。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 科学研究費助成事業（文部科学省）等の臨床研究や治験業務に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献するとともに、川崎病の症例数や複雑な先天性心疾患に係る難易度の高い手術症例数が成人を含むDPC病院の中で8年連続全国1位となるなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。				

中期目標(項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 2 福岡市民病院における経営改善の推進
中期計画	年度計画
① 将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、福岡県保健医療計画及び地域医療構想に基づき、公立病院に求められる高度専門医療、救急医療を提供するとともに、福岡市の医療施策として必要な感染症医療等の診療機能の充実に取り組む。 その一方で、経営の効率化に積極的に取り組み、現在の医療資源を最大限有効活用して、収支の改善に努める。 ② 収支の状況を踏まえながら、築30年を超えた既存の施設・設備の計画的な維持管理に取り組む。	① 令和3年度に実施された福岡市病院事業運営審議会における答申「福岡市民病院における感染症医療について」を踏まえ、「I C I C（感染対策情報発信センター）」を中心とした地域の医療機関への情報発信や、合同訓練等の実施など、新型コロナウイルス感染症対策を始めとする新興感染症への備えを強化するとともに、公立病院に求められる高度専門医療、救急医療の充実に取り組む。 また、現在の医療資源を最大限活用して経営の効率化に積極的に取り組む。 ② 中長期修繕計画に基づき、施設・設備の長寿命化や投資の平準化を図るとともに、将来的な福岡市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえ、当該計画を適宜見直し、施設・設備の適切な維持管理に取り組む。

中期目標(内容)	福岡市民病院については、地方独立行政法人化後、医療環境の変化等を踏まえ医療機能を強化するなど、順調にその経営改善が図られたところであるが、引き続き経営課題の解決に努めるなど、更なる経営改善を進めること。 また、将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、既存の施設・設備の計画的な維持管理に取り組むこと。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 福岡県が令和6年3月に発表した「新型コロナウイルス感染症対応の総括と記録」では第1波を含む期間（令和元年12月から令和2年6月）の重症化率は6.82%、死亡率については4%（死亡症例のうち20.59%は福岡市民病院）と非常に高い割合となっていた。ウイルスに関する情報も少なく危険性が高いなかで福岡県からの病床確保の指示を待たず第1波を含む期間に最大で感染病床4床・一般病床31床の合計35床を対応病床として確保した。コロナ対応については令和元年度から令和5年度にかけて病床確保及び重症化リスクのある患者の積極的な受け入れ等、福岡県の第2種感染症指定医療機関として中核的な役割を果たした。 令和4年度に設置したI C I C（感染対策情報発信センター）において、ホームページを用いた地域の医療従事者向け情報発信を継続して行うとともに、地域の医療機関等との合同による感染対策に係る訓練や研修会の実施、今後の新興感染症への備えとして段階的に感染管理認定看護師を増員する計画を立案するなど、地域における感染症対策の質の向上や、新興感染症への備えの強化に取り組んだ。 コロナ対応については、5類移行後も感染動向に合わせて病床確保を継続し、10月から確保病床の制度が解除された後も、重症化リスクの高い患者の受け入れに継続して取り組んだ。 上半期はコロナ対応のための病床確保を継続した影響と、令和4年度診療報酬改定により変更となった入院料に係る施設基準への対応のため、平均在院日数が短縮したことに伴い、病床利用率が低下した。病床利用率改善のため、毎朝の「病床管理会議」や、定期的な「連携推進ワーキンググループ」の取組、加えて全職員を対象に「院長訓示」を実施し、経営改善に向けて病院を挙げて取り組むことを周知徹底したことにより、下半期には徐々に病床	2	3	3	○ 感染症対策に関する地域への情報提供や、高度専門医療や高度救急医療の推進など、求められる役割を果たしながら、5類移行後のコロナ対応についても、重症化リスクの高い患者の受け入れなどに継続して取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
利用率が向上したほか、紹介患者数、救急搬送件数についても増加した。 また、入院単価については、平均在院日数の短縮や高度な手術等の実施に取り組んだ結果、78,480円と高水準となるなど、アフターコロナに向けた様々な取組の結果、医業収益は増となり、対前年度比は365,116千円の増収であった。 一方で、多職種による診療材料費の縮減等、費用削減にも取り組んだものの、高額な薬品等の使用増や、手当の増による給与費の増等により、医業収支比率は目標を下回ったが、国や県のコロナ関連補助金により、病床確保の継続で減収となる医業収益の補填に活用し、経常収支比率は目標を達成した。 ② 経年劣化により、土中に埋設している重油配管から重油が流出したが、適切に対応を行った。今後も、土中又は地下水の浄化を実施していく予定である。 【自己評価の判断理由】 ○ 経年劣化による、重油配管からの重油流出についても適切に対応を行い、コロナ対応では福岡市の中核的な役割を果たしながら、複数の制約下においても経営改善に取り組みつつ高度専門医療の提供に積極的に行い、一定程度の医業収益を確保したことから、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。				

第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（令和5年度）の執行状況

（単位：百万円）

区 分		予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
収入				
	営業収益	17,321	18,019	698
	医業収益	15,368	15,304	△ 63
	運営費負担金収益	1,754	1,940	186
	補助金等収益	111	594	482
	寄附金収益	6	72	66
	受託収入	82	109	27
	営業外収益	166	116	△ 49
	運営費負担金収益	67	6	△ 61
	補助金等収益	1	4	3
	その他営業外収益	99	107	8
	資本収入	201	85	△ 116
	長期借入金	—	—	—
	運営費負担金	179	54	△ 125
	寄附金	—	—	—
	補助金等	22	31	9
	その他の収入 (有形固定資産の売却による収入)	12,200	12,200	—
	計	29,888	30,421	533
支出				
	営業費用	16,611	16,779	168
	医業費用	16,401	16,591	190
	給与費	9,272	9,444	172
	材料費	3,978	4,262	283
	経費	3,030	2,794	△ 236
	研究研修費	121	91	△ 30
	一般管理費	210	188	△ 22
	給与費	140	137	△ 3
	経費	70	51	△ 19
	営業外費用	148	140	△ 8
	臨時損失	—	62	62
	資本支出	12,061	11,873	△ 188
	建設改良費	869	681	△ 188
	償還金	11,192	11,192	△ 0
	その他の支出	958	959	1
	計	29,777	29,812	35

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがある。

（注）予算額は、年度計画変更の議決を得た令和5年5月時点の予算額を計上している。

2 収支計画（令和５年度）の執行状況

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
収益の部	26,752	27,261	509
営業収益	17,560	18,097	537
医業収益	15,368	15,286	△ 81
運営費負担金収益	1,754	1,940	186
補助金等収益	111	594	482
寄附金収益	6	72	66
資産見返負債戻入	238	105	△ 133
受託収入	82	99	17
営業外収益	166	108	△ 58
運営費負担金収益	67	6	△ 61
その他営業外収益	99	101	2
臨時利益	9,026	9,056	30
費用の部	19,348	19,582	234
営業費用	18,193	18,351	158
医業費用	17,892	17,440	△ 451
給与費	9,372	9,590	219
材料費	3,978	3,876	△ 103
経費	3,034	2,556	△ 479
減価償却費	1,385	1,331	△ 54
資産減耗費	2	1	△ 0
研究研修費	121	86	△ 35
一般管理費	214	186	△ 28
その他営業費用	88	725	637
営業外費用	148	140	△ 8
臨時損失	1,007	1,091	84
純利益	7,404	7,679	275
目的積立金取崩額	—	—	—
総利益	7,404	7,679	275

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入にしているため、端数において合計とは一致しないものがある。

（注）予算額は、年度計画変更の議決を得た令和５年５月時点の予算額を計上している。

3 資金計画（令和5年度）の執行状況

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
資金収入	36,178	38,256	2,079
業務活動による収入	17,487	19,006	1,519
診療業務による収入	15,368	15,543	175
運営費負担金による収入	1,821	1,946	125
その他の業務活動による収入	299	1,517	1,219
投資活動による収入	12,401	13,509	1,108
運営費負担金による収入	179	54	△ 125
有形固定資産の売却による収入	12,200	12,200	—
その他の投資活動による収入	22	1,255	1,233
財務活動による収入	—	—	—
長期借入れによる収入	—	—	—
その他の財務活動による収入	—	—	—
前事業年度からの繰越金	6,290	5,741	△ 548
資金支出	36,178	36,773	595
業務活動による支出	17,765	17,972	207
給与費支出	9,412	9,569	157
材料費支出	3,978	3,838	△ 140
その他の業務活動による支出	4,376	4,565	189
投資活動による支出	741	1,747	1,006
有形固定資産取得による支出	741	473	△ 268
無形固定資産取得による支出	—	49	49
その他の投資活動による支出	—	1,225	1,225
財務活動による支出	11,320	11,313	△ 7
長期借入金の返済による支出	7,990	7,990	—
移行前地方債償還債務の償還による支出	3,201	3,201	0
その他の財務活動による支出	128	121	△ 7
翌事業年度への繰越金	6,352	7,225	873

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

（注）予算額は、年度計画変更の議決を得た令和5年5月時点の予算額を計上している。

第6 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実 績
1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応	1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応	該当なし

第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実 績
重要な財産を譲渡する計画 土地（福岡市中央区唐人町二丁目133番2 面積16,925.85平方メートル）を譲渡する。	土地（福岡市中央区唐人町二丁目133番2 面積16,925.85平方メートル）を譲渡する。	土地（福岡市中央区唐人町二丁目133番2 面積16,925.85平方メートル）を譲渡した。

第8 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実 績
決算において剰余金が生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。	決算において剰余金が生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。	令和5年度は、決算において剰余を生じたので、令和6年度以降における病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる予定である。

第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実績																		
1 施設及び設備に関する計画 (令和3年度から令和6年度まで) (単位:百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td><td>4,762</td><td>積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備の内容	予定額	財源	病院施設、医療機器等整備	4,762	積立金等	1 施設及び設備に関する計画 (令和5年度) (単位:百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td><td>741</td><td>前中期目標期間繰越積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備の内容	予定額	財源	病院施設、医療機器等整備	741	前中期目標期間繰越積立金等	1 施設及び設備に関する計画 (令和5年度) (単位:百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備の内容</th><th>決定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td><td>560</td><td>前中期目標期間繰越積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備の内容	決定額	財源	病院施設、医療機器等整備	560	前中期目標期間繰越積立金等
施設及び設備の内容	予定額	財源																		
病院施設、医療機器等整備	4,762	積立金等																		
施設及び設備の内容	予定額	財源																		
病院施設、医療機器等整備	741	前中期目標期間繰越積立金等																		
施設及び設備の内容	決定額	財源																		
病院施設、医療機器等整備	560	前中期目標期間繰越積立金等																		
2 人事に関する計画 人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 医師及び管理職を対象とした人事評価制度については、引き続き評価結果を業績手当へ反映するなど、職員のモチベーションの維持・向上を図った。 また、管理監督者を対象とした外部講師による研修及びそれ以外の職員を対象としたWeb動画を活用したコンプライアンス研修や、全職員対象の情報セキュリティ研修等を実施したほか、職員4人を外部研修へ派遣した。 各病院においてもWeb等を活用した院内研修の実施や外部研修の受講推進等研修体制の充実に努めた。 人材育成や組織の活性化を図るため、適材適所の人事配置に努めたほか、有期職員を福岡市立こども病院に155人、福岡市民病院に114人及び運営本部に2人配置するなど、効果的・効率的な組織運営を推進した。 ※有期職員の人数は令和5年5月1日現在																		

地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針

平成30年 6 月22日

福岡市長決定

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第 28 条第 1 項各号の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が実施する地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の業務実績に関する評価（以下「評価」という。）については、以下の方針に基づき行うものとする。

1 基本方針

- (1) 評価は、法人が中期目標を達成するために、業務運営の改善及び効率化が進められること及び法人の質的向上に資することを目的として行うものとする。
- (2) 評価は、年度計画及び中期計画の実施状況を確認及び分析し、法人の業務運営等について総合的に判断して行うものとする。
- (3) 年度計画及び中期計画を実現するために、法人として特色ある取組や様々な工夫を行った場合は積極的に評価することとし、単に実績数値にとらわれないものとする。
- (4) 評価方法については、法人を取り巻く環境変化などを踏まえ、柔軟に対応するとともに、必要に応じて見直しを行うものとする。

2 評価方法

(1) 法人からの報告書の提出

法人は、各事業年度の終了後 3 月以内に、法第 28 条第 2 項及び地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則第 8 条に定める報告書（以下「業務実績報告書」という。）を市長に提出するものとする。

(2) 評価の実施

市長は、提出された業務実績報告書をもとに、法人からの意見聴取等を踏まえて業務の実施状況を確認及び分析し、別途、実施要領で定める項目を評価単位とする「項目別評価」と、それを踏まえた「全体評価」により評価を行うものとする。

評価は、毎事業年度の終了後に実施する「年度評価」、中期目標の期間の最後の事業年度の直前の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間見込評価」及び中期目標の期間の最後の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間評価」とする。

① 年度評価

当該事業年度における業務の実績について「項目別評価（小項目評価及び大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

② 中期目標期間見込評価

中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

③ 中期目標期間評価

中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

3 評価結果等の活用

- (1) 法人は、法第 28 条第 6 項に基づく業務運営の改善等の措置を受けた場合、自主的に必要な措置をとるとともに、法第 29 条に基づき、評価の結果を、中期計画及び年度計画並びに業務運営の改善に適切に反映させる。
- (2) 次期中期目標の策定、次期中期計画の認可及び法人の業務の継続又は組織の存続の必要性等に関する検討に関して、評価委員会が意見を述べる際には、中期目標の期間の各事業年度の評価結果を踏まえるものとする。

4 適用時期

この方針は、平成 30 年度に実施する業務実績評価から適用する。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領

平成30年6月22日
福岡市長決定
令和4年4月22日改正
令和5年1月31日改正

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第28条の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の各事業年度における業務の実績に関する評価を実施するに当たっては、「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針（平成30年6月22日決定）」に基づき、以下の要領により実施する。

1 評価区分

(1) 全体評価

当該事業年度における業務の実績全体について評価を行う。

(2) 項目別評価

① 大項目評価

法第25条第2項第2号から第5号の各号に基づき、中期目標に掲げる第1から第4の事項について評価を行う。

② 小項目評価

大項目評価で定める評価区分に基づき、別表で定める事項について評価を行う。

2 評価結果の公表

評価の結果は、評価区分ごとに評価結果報告書（別紙1のとおり）にとりまとめ公表する。

3 評価方法

(1) 法人の自己評価

法人は、中期計画及び年度計画の実施状況等が明らかになるよう、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由等を記載した業務実績等報告書（別紙2のとおり）を作成する。法人は、各小項目に市立病院としての役割や年度計画の重要度合いを考慮して、ウェイトを設定するものとする。

なお、業務の実績には、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、特記事項として、特色ある取組、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院の自己点検に基づき、法人として行うものとする。

評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価４・・・年度計画を上回って実施している。

評価３・・・年度計画を順調に実施している。

評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 項目別評価

① 小項目評価

市長は、業務実績報告書記載の法人の自己評価を踏まえ、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。その際、単に目標値及び前年度数値と当該年度の実績値の比較だけでなく、中期計画を達成するために効果的な取組が行われているかどうかなど、総合的に判断するとともに評価の判断理由等を記載する。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価４・・・年度計画を上回って実施している。

評価３・・・年度計画を順調に実施している。

評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

② 大項目評価

市長は、小項目評価の結果を踏まえ、大項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。評価に当たっては、小項目評価の１～５をそれぞれ１点～５点とし、ウェイト換算後の合計を評価点、すべての小項目評価が３の場合の合計を標準点とし、標準点に対する評価点の割合（％）により評価を行うものとする。

また、特筆すべき小項目評価やその他考慮すべき事項がある場合、判断理由を記載する。

評価S：中期計画の実現に向けて、特筆すべき進捗状況にある
(市長が特に認める場合)

評価A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる
(評価点が標準点の120%以上)

評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
(評価点が標準点の100%以上120%未満)

評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている
(評価点が標準点の100%未満)

評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある
(市長が特に認める場合)

(3) 全体評価

市長は、項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について、記述式による評価を行う。

全体評価においては、病院改革の取組（法人運営における業務運営の改善・効率化、財務内容の改善など）を積極的に評価するものとする。

その評価に当たり、項目別評価の結果及びその判断理由とともに、主な取組や特色ある取組及び特に優れている点など特筆すべき取組について記載するものとする。

また、評価に際し改善すべき事項がある場合は記載する。

(別表) 項目別評価

大項目	小項目	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践
		(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
		(3) 災害・感染症等への適切な対応
	2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上
		(2) 情報発信
	3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修
		(2) 信頼される医療の実践
第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	
	2 事務部門の機能強化	
	3 働きがいのある職場環境づくり	
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保	
第3 財務内容の改善に関する事項	1 持続可能な経営基盤の確立	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化
		(2) 投資財源の確保
	2 収支改善	(1) 収益確保
		(2) 費用削減
第4 その他業務運営に関する重要事項	1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	
	2 福岡市民病院における経営改善の推進	